

平成28年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成28年2月29日(月曜日)

議事日程第3号

平成28年2月29日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 19名

出席議員 19名

1番	吉川慶一君	2番	笠原幸江君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	倉又稔君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	中村実君	10番	大滝豊君
11番	高澤公君	12番	伊藤文博君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	五十嵐健一郎君
18番	松尾徹郎君	19番	樋口英一君
20番	古畑浩一君		

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

+

市	長	米田	徹	君	副	市	長	織田	義夫	君
総務部	長	金子	裕彦	君	市民部	長	岩崎	良之	君	
産業部	長	斉藤	隆一	君	総務課	長補佐	井川	賢一	君	
企画財政課	長	藤田	年明	君	定住促進課	長	渡辺	勇	君	
能生事務所	長	原	郁夫	君	青海事務所	長	大瀬	信明	君	
市民課	長	池田	正吾	君	環境生活課	長	五十嵐	久英	君	
福祉事務所	長	加藤	美也子	君	健康増進課	長	山本	将世	君	
交流観光課	長	渡辺	成剛	君	商工農林水産課	長	斉藤	孝	君	
建設課	長	串橋	秀樹	君	会計管理者		横田	靖彦	君	
ガス水道局長		清水	保雄	君	会計課	長兼務				
教育長		田原	秀夫	君	消防	長	大滝	正史	君	
教育委員会	こども教育課	長	山本	修	教育次長		竹之内	豊	君	
					教育委員会	こども課	長兼務			
					教育委員会	生涯学習課	長			
					中央公民館	長兼務	佐々木	繁雄	君	
					市民図書館	長兼務				
教育委員会	文化振興課	長	磯野	茂	君					
歴史民俗資料館	長兼務									
長者ヶ原考古館	長兼務				監査委員	事務局	長	森	正人	君

事務局出席職員

+

局	長	小林	武夫	君	次	長	松木	靖	君
係	長	室橋	淳次	君					

+

午前10時00分 開議

議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（倉又 稔君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、大滝 豊議員、19番、樋口英一議員を指名いたします。

+

## 日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

2月26日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について。

合併から10年、今までは新市建設計画を基本にした総合計画のもと糸魚川市の一体感の醸成に力を入れた市政が展開されてきたと考えています。

この間、平成25年には市町合併の効果等の検証と課題把握として、中間評価の報告があり、その時点では「市町合併は、長期的な視点で行われたものであり、本来の効果が現れるまでには一定の期間を要することから、現時点で総括的な評価を行うには至っていない。」とのことでした。

ただ、現在、平成29年度からの第2次総合計画の策定にとりかかっており、今度の計画には合併の効果等の検証と課題把握を含め、10年間の総括を基本に据え、新たな夢のある計画が必要であります。

第2次総合計画の策定方針には、「社会経済環境と合併10年間の総括を踏まえて」、さらに、「その後の社会経済情勢の変化や新たな住民ニーズへの対応など、本市が抱える課題に的確に対応する」として、市民参画を基本に、全職員の創意と熱意により策定作業を行うということで、大いに期待しているところです。

そこで、今回は「合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について」、実際の数値や住民の声による市政へのかかわりに関し、どんな受け止め方をされ、第2次総合計画などに反映させていく考えであるか伺います。

(1) 市民アンケートで見える市民満足度などについて。

過去3回にわたり総合計画の策定時に市民アンケートを実施し、これまでの取組を検証したり、市民の意識を確認していますが、市民満足度など住民の意向をどのように受け止め、今後反映させる考えか伺います。

(2) 第1次総合計画の目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について。

総合計画の目標指標は達成度や効果をわかりやすく示すための「ものさし」であり、長期財政見通しは財政的視点から補完し、計画の実効性を高めるためのものと思いますが、第

1次総合計画における目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について伺います。

(3) 「新潟県100の指標」で示された分野別の市勢に関する受け止め方について。

新潟県では、人口、経済、福祉、教育や財政など各分野から選んだ100項目について、県内における市町村の順位を掲載し、生活や社会に関連する様々なデータを提供していますが、毎年のデータをどのように受け止め活かしているか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川市の印象に関する大半の項目で、よい印象が増加していることから市民の印象は改善してきていると感じております。

一方、産業や健康福祉分野における満足度が低い結果となっており、産業振興や雇用環境の整備、地域医療体制の充実などの取り組み強化が必要と認識いたしております。

満足度の低い施策については、原因分析を行い、実施指標を見直し、アンケート結果を総合計画の策定に活かしてまいります。

2点目につきましては、第1次総合計画の76項目の目標指標のうち、26年末では55項目が8割以上の達成率となっております。

また、財政計画では、新幹線関連事業などの大きな事業がほぼ完了したところでありますが、財政健全度を示す実質公債費比率は、予想より低く抑えられている状況であります。第2次総合計画の策定に当たっても達成度を踏まえた目標指標の設定や長期財政見通しの策定により、効果的・効率的な行財政運営に努めてまいります。

3点目につきましては、他市町村と比較することにより当市の実態や課題が見えてくるものと受けとめており、各種の計画の策定や施策を立案する際の参考といたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくごさいいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、2回目の質問に入ります。

まず、1点目の市民アンケートに見える市民満足度などについてであります。

まず、この調査ですけれども、調査のお願いの中で当市を取り巻く社会経済環境が大きく変化しており、時代に合った新たなまちづくりの基本指針が必要のことから皆さんのご意見をお聞きして、

これまでの取り組みを検証するとともに、これからのまちづくりに生かすために行ったものということですよね。具体的には、取り組みの検証とどのような生かし方を考えているのか、まずお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

おはようございます。

今回のアンケートについては、総合計画策定の前、5年前の状況と比較して5年間の取り組みが市民から見てどう映るか、そういったことを検証する目的というふうに思っております。それを踏まえて、市民の意識、考え方、糸魚川市の見方、そういったものを改善するにはどうすればよいか、そういったことを第2次の総合計画で生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

このアンケートの結果なんですが、まず具体的なところでは、糸魚川市の住みやすさ、住みにくさ、この点、今回、住みやすいが47.7%。前回、平成22年の12月の2回目の49%と比べて若干減少しているんです。この点に関しては、どのように受けとめておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

満足度のほうを見てみるとやはり医療のほう、それから雇用の関係、そういった面でやはり満足度が低いという結果になっております。当市を取り巻く環境の中では、人口減、そういったものによってそういった環境もやはり見方が少し変わってきてるのでないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ちなみに近隣ということで上越市、妙高市、同じ設問の住みやすさ、これに関して、上越市は79.2%、妙高市は70.4%ということで非常に高い評価があるわけですね、かなり糸魚川市とは、雰囲気は違うんですけども。必然的に住みやすいところへ人は流れていくわけですから、この数字には危機感を感じているんですが、先ほど医療・雇用の問題が大きいんじゃないかというお話も聞けてるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、上越・妙高市と比べて市民の糸魚川市に対する感じ方が低いという結果になっております。そういったのを分析する中では、1つは上越市という商業施設、雇用、そういったものがやはり当市よりも集中している、そういった面も大きなものがありますし、妙高市と上越市の関係、そういったものも大きく影響しているのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この点で糸魚川市はどのように感じるかという設問で、先ほどから話があります働く場所、物価、医療体制、買い物、交通の便、この5項目で50%以上、半数以上の方が不満を感じているというふうなことなんですが、住みやすさの数字が上らないのは、これらの5項目が中心になっているんじゃないかと思うんですが、その辺さらにこういう状況に関してどのように、この5項目に関してはどういうふうに捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、言われた5項目というのは、簡単に改善するというのは、非常に難しい部分もあろうかと思っております。

ただ、市民の感じ方を変える、そういうことはいろんな形でやっていく必要があると思っております。隠岐のパンフレットにもありますけれども、ないものはないという、ないものはない、ある中でいかにまちづくりを進めていくか、そういう形で進める中では、最終的には、ないものはなくなるんでないかなという気はしておりますので、やはり考え方の革新、当然、施策としていろんな数値を上昇していくということも非常に重要ですけれども、そういう中で市民の医療に対する考え方とか、福祉に考える考え方、それからまちづくりの考え方、そういったものも一緒になって変えていく、考えていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

特に、地域医療体制、この維持・充実という点、満足度調査の不満とやや不満で66%、重要度では、重要、ある程度重要で90.6%。平成22年の前回調査、これは不満とやや不満で65.8%、重要、ある程度重要で90.1%。これ本当に全くと言っていいほど数字が変わってな

いわけですよね。この状況をどのように捉えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに、議員がおっしゃいますように医療の部分につきましては、全国的な医師不足の中で大変厳しい状況が続いているということで認識しております。

ただ、行政のほうも手をこまねいているということではなく、いろんな形で活動させていただいておりますが、なかなか実として結んでいないというような状況でございます。

ただ、近年、糸魚川総合病院におきましては、研修医等が去年、おととしと6名ずつマッチングするというような形で、それは県内の中で、また全国の中でも珍しい状況でございます。そういった方々が地域に根差していただくような形で今後も進めてまいりたいというふうに思っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

不満の具体的な内容の分析、市民の不満といえば、まずは病気にかかり、身近な医療機関での受診の際、感じる事が一番大きいと思うんですが、直接、市で市民の声として受けとめているものがありましたら伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

市民からの声という部分の中では、皮膚科とか泌尿器科、特定診療科目につきましては、糸魚川総合病院には、常時いるというような状況でございませぬ。そういった部分につきましては、常時開設できるようなということで声は聞いているところでございます。

ただ、こちらのほうにつきましても、全国的な専門とする医師数が減少する中で厳しい状況でございまして、今、日程は毎日ではございませぬが、大学側のほうの協力を得る中で診療させていただくというような状況でございませぬ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この件については、市の運営している診療所以外は、それぞれの経営者によるお考えもあるわけですけれども、市民の声というのは、医療体制全般に対する不満であったり、要望でもあるわけです

ので、市の対応といたしましては、糸魚川病院初め開業医の先生方とも連携が当然必要になってくるわけですが、その点ではどのようなつながりで対応されてるかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

今、糸魚川総合病院、また糸魚川医師会との連携の中では、やはり病院は病院の役割、開業医は開業医の皆様方の役割というものがございまして、今後また高齢化に伴いまして在宅医療という分野が重要な部分を担ってまいりますので、そういった連携がどういった形でとれるのかという部分につきましては、協議させていただいておりますし、またその現場には、介護職の方もかかわってまいりますので、そういった方々が連携する協議の場、そういったものを設けて協議を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今回のアンケートの自由意見のところ、市の病院では予約が必要で、すぐに診ていただけないとか、また結局上越へ行き、ついでに買い物もすることになって市が盛り上がらないという意見や、上越へ行って診てもらったら、もう少し遅かったら大変だったという意見もあったり、これが1人や2人の意見でないような気もしてはるんですが、この辺、具体的なこういう意見が出ておるんですが、こんな事例に対しては、どんなふうにとめておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

自由意見欄でそういった記載があるということは承知しておりますが、個々具体的なものという形では、私どものほうに正式に入ってきたようなものはございません。

ただ、いろんな形のうわさの中では、今、総合計画のアンケートの中でご指摘があったような部分は、耳に入ってくるものもございまして、そういった部分につきましては、確かに糸魚川総合病院でない診療科目もございまして、やはり市外のほうにという部分は、いたし方ないという部分もありますが、そこを常時ではなくしてもスポット的においでいただくとかそういった手だてはとれないかという部分の中で糸魚川総合病院と協議を進めさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先ほど申し上げました、いわゆるアンケートの内容で非常に厳しい意見の反応があった5項目、いわゆるいずれも地方創生における人口減対策、それから定住対策の基本であるわけです。

したがって、第2次総合計画の上で策定方針の趣旨にも合致しておりますので、ちなみにこの5項目以外というのは、かなりの満足度を上げておりますので、この不満の大きい5項目に関して、特別に第2次では、重点を置いていくべきかなというふうに思っておりますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういう意味でも、今回、策定した総合戦略というのもそういう意味合いも持っているというふうに思っております。いずれにしても、やはり市民から見た糸魚川市の、いわゆる感想というものが、その結果が低いということは非常に残念なことと受けとめておりますので、やはりそういった数値が上がるような事業の見直し、そういったものはしっかり進めていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

住民要望の具体的な事例ですけども、第1次の後期計画の中で能生地域において、能生国保診療所の改修、それから医療機器の整備をしていただいたわけです。大変喜ばれておりまして、人口減対策、定住対策に大きく貢献をしてるというふうに感じておるんですが、1年たったんですけども、利用度等については、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

能生国保の診療所につきましては、改修また機器整備の後につきましては、能生谷だけではなくして能生の町うちのほうからも一部患者様が来ていただけるというような状況でございます。患者数につきましては、微増というような傾向でございます。そういった意味の中で地域に根差した医療ということで進めさせていただくこととございますし、また先ほど申し上げました糸魚川総合病院のほうに研修医が来ているという部分の中で、能生国保診療所におきまして地域医療の実践の場というような形で提供する中で、地域医療を研修医の皆様方が直接肌で感じるというような場にさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先ほど申し上げましたように、糸魚川病院などでは患者が集中してなかなか予約がとれないといった現象もあるそうですので、この能生の国保診療所は、せっかく建物も装備も最新のものにしていただいたわけですので、広く市民の皆さんから利用していただくために診療所の活用方法、これをもっと考えていただいて利用度を上げていただいたらどうかなという気もするんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに、能生国保診療所につきましては、MRI、CTというような高度な医療機器が整備させていただいております。これにつきましては、能生地域の皆様方に限定した使い方ではなくして、全市的な皆様方でお使いいただくような形で、そういった分につきましては、もう少し広報等通じる中で、能生国保診療所にそういった機器が整備されているというような部分について広く周知をしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

次ですが、中学3年生のアンケート、これによりますと市外に住みたいという意向が28.7%、前回よりも5.3ポイント多くなっておるんです。憂慮しております。しかも、今までを含めて3回ともに25%前後、市外に住みたいという意向が続いているわけです。一般の人たちが、ちなみにこの設問ですと10%程度ですから、中学3年生においては倍以上にもなっておるんです。これを放置していたら大変なことになってしまうというふうに思うんですが、今回の数字から見ますと現在の中学3年生360人中103人の子供たちが既にそのような考え方を持っているというふうなことになるんですけども、この点に関してはどのように受けとめておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回のアンケート結果を一般と中学生とを比較してみたときには、やはり子供たちが地域に対する愛着、そういったものについては、やはり一般よりもかえって高いふうに感じております。

ただその一方で、今言われたように、将来もずっと住み続けるかというとその数字が低くなっている。やはり働く場とか買い物、それから娯楽そういったものに対して市外への憧れというものの子供たちというのは強いんでないかなという、それに対して一般の方というのは、もう既に糸魚川市

に住んで生活しておられるので、中学生と比べると高い形になってますけれども、いずれにしても総合戦略という中では、一旦出てもいいけどやはりまた糸魚川に帰ってきてほしいというそういう思い、そういう施策、そういったものを進めていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課長がおっしゃるとおり中学3年生、糸魚川市は暮らしやすいと思ってる人が64.4%、これ一般の47.7%よりもかなり多いんですね、暮らしやすいと。ですから、今、本当に親もとにいるせいかもしれませんが、暮らしやすいけども将来を考えるとここにはいられないというようなことで、非常に課長が今おっしゃるとおりの、本当にこれから希望を持って生きていく子供たちにとっては、やはりプラス面の多い地域へ気持ちは動くということは、これは当然だと思んですが、半数以上の市民が不満を感じている中に働く場所、これが入っているわけです。中学3年生にとっては、高校・大学、それから職業選択というふうな道筋を考えますとやっぱり頭のいい子はそろっと中学3年生ぐらいでも働く場所、こういうもんが入ってくるわけですが、この対策というのは非常に大事になってくるのではないかと思うんですが、こういう中学3年生の働く場所、これをかなえるためにどうするかということなんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

働く場がたくさんあるかないか一般と中学生と比較した場合に今、議員からのお話のように子供たちの気持ちがそのような数値であらわれてきてるわけでごさいます、今後の糸魚川の経済、それから産業振興の中におきましては、既存企業の拡充、また新たな創業、新たな起業への支援、それからいろんな多様な働き方があるわけでありますので、そういうところの方向性も市のほうが見据えながら総合的に支援していく必要があるのではないかなと思っておりますけれども、いずれにしても1人でも多く地元に残っていただけるようにキャリア教育も含めて、高校も含めてもっと足を運んで子供たちの気持ちを酌み取っていきいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

最近の事例でありますけども、海洋高校が随分変わってきたというふうなことがいろんなところで実感いたしているんですが、生徒、先生、学校、地域、行政ともに情報を共有して、いろんな取り組みが始まっているわけです。非常に存在感があるわけで、これをさらに発展させるためにはというふうに考えますと、全国に、あるいは世界に通用する人材の育成というふうなことになるんですが、そうなりますとここでも、実は、次は大学で市外へ行くとか、あるいは仕事でも市外へ行くと

いうふうなことになってしまうような危惧もしておりますが、ある意味では、海洋高校を卒業すると切れてしまうというふうな、地域と切れてしまうということになってしまっは困るんですが、この辺のところはどんなふうに対応しようとしてるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

昨年の4月からシーフードカンパニーということで、最後の一滴の加工場がオープンしていただきました。農林水産省のフードアクション2015で審査員特別賞をいただいたり、あるいはBSの日テレで青空レストランで取り上げていただいたり、非常にマスコミからも、また市以外からも非常に関心を持っていただいて生産量も伸びてきております。今の能水会OBの皆さんが運営母体となって取り組んでいただいておりますけれども、これらにつきましてもいずれその枠を超える必要があるんじゃないかなというふうに考えておまして、次のステップに向けて、今、議員からのご提案もありましたように自分たちが開発し、自分たちが製造してきたものが、卒業後もそこで雇用できるような仕組みを、今後考えていく必要があるなということで、次のステップに向けての調査・検討、それから方向性を出す時期ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私は、先日の地方創生の委員会でも言っておりますが、1つの提案ですけども、この海洋関係につきましても、新潟県立大学に水産学部をつくっていただいて糸魚川市に誘致する。あるいは、随分もうなくなって時間がたってるんですが、海洋高校にかつてありました専攻課程をつくって専門的な知識を習得できるようにする。そうしますと全国から学生を誘致するというのもできるわけですし、また相乗効果で水産関係の企業誘致にもつなげることができるんじゃないかと。先ほど課長がお話ありました起業できる環境、これも容易にすることもできるんじゃないかなと。非常に様子が変わってくるというふうに思うんですが、県あるいは国へそういう働きかけなり要望というのをしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

渡辺議員がおっしゃるように海洋高校の活動、産学官連携をした取り組みについては、非常に注目をいただいております。そのような中で、今、議員のほうからおっしゃられた提案の内容も1つの大事な方向ではないかというふうに思っております。海洋高校で学んだことが、さらにレベルアップして学んでいけるようなそういう場を考えていくということは、非常に大事だと思いますので、おっしゃる方向も含めて関係機関で連携した対応をしていけるように進めていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、子供たちの地元就職に関する意識、県の新潟暮らし推進課で、先日お聞きしてきたんですが、県の調査では、両親や親族からのアドバイスによる就職活動への影響について、これを子供たちに問うたところ、73.5%が影響していると答えました。それから、地元就職に対する考え方の変化、ここでも67.9%が親や親族からの働きかけで地元就職を意識するようになったというふうに答えてるわけです。

したがって、親を初めとする周囲の環境というのは非常に大きいということがもうここで感じられるんですが、この辺の対応というのは非常に重要になってくると思うんですが、どのように今の話で感じますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

総合計画におけます市民アンケートの結果におきましても、働く場に恵まれていると感じている市民の一般の方、それから働く場がたくさんあると感じている中学生、このアンケート結果を見ますと中学生の場合につきましては、平成17年のときよりも働く場がたくさんあるというふうな認識がふえてきております。今お話のように子供たちを地元就職に結びつけるような、やはり親からの誘導も必要だというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

とにかく大事な市民アンケートでありますし、大きな財産でもあると思うんです。これらの声をいろんな面で生かす工夫をしていただきまして、単に数字を拾うということではなしに数字をつなぐというふうなことで多面的に展開していただきたいというふうに思います。

それから、2点目に入りますけども、まず第2次総合計画ですけども、作成作業が今進められておるわけですが、総合計画の法的義務づけそのものがなくなって、作成しなくてもいいということと考えますと、作成する場合の中身も従来のスタイルでなくてもいいというふうなことになるんじゃないかと思うんですが、今回の総合計画の作成のスタイル・手法、これには前回と変わりがあるんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

法の位置づけがなくなって、当市においては条例での位置づけという形に変わってきております。そういう中では、今回の条例では従来どおり基本構想・基本計画という形で進めております。全国的に見るとやはりかなり変わったつくり方をしているところも出ております。そういう中では、市の最上位計画という位置づけも考える中で、他市の計画も参考にしながら次のステップというのにも考える必要があるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

法的な義務づけはなくなったということに関してでありますけども、本当のところ、国の考え方というのはどうなんでしょうか、義務づけをなくした背景というのご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはり国が縛るのではなくて地方がみずから計画をつくり進めていくべきということのあらわれだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

報道によりますと、市町村側から基本構想は、実態として策定そのものが目的化しており、多額の費用をかけて策定しているけども形骸化しているというふうな指摘が、いわゆる市町村側から国にそういう発信があったというようなことも大きいというふうに言われておるんですが、この点に関しては糸魚川市としては、今までの課長のお話もありましたけども、こういう国に対して発信があったというようなことを報道してるんですが、糸魚川市としてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

糸魚川市においては、合併後、第1次の総合計画を策定いたしました。市の行政運営の最上位計画という位置づけで進めております。その状況については、第2次総合計画を策定中でございますが、その基本的な最上位計画という意味での位置づけは変わっておりません。そういう意味では、糸魚川市において行政運営、市政運営をしていく上での市民の皆さんからの意見、あるいは先ほど来、課題のお話もございましたが、そういう状況を踏まえて今後7年間進むべき方向を議会の皆さん、市民の皆さんと一体となって方針を決めていくんだということは、非常に重要な計画だという

ふうに位置づけております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いずれにしましても法律による義務に応じた計画策定から住民本位の計画策定というふうなことになるわけですが、市の自主的な取り組みとしての総合計画に生まれ変わるということですが、作成のスタイル・手法が変わってもいいんですが、問題は、市民や職員にわかりやすく共有できる、それから達成できる計画といえますか、達成したくなる計画にしていきたいと思います、この点くどいようですが、どのように考えておるかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、総合計画の基本構想のほうがおおむね固まって、基本計画の審議を進めております。そういう中で、基本計画のほうの書式、そういったものも少し工夫をして、見てわかりやすいような形、それから目標とする指標、そういったものも掲げる中で、また市民とどのような形で協働していくのか、そういったことも含めてなるべく見てわかりやすいような形にまとめていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今回は、作成手法として第2次系魚川市総合計画策定方針、この中で現行の総合計画で進めてきた各種施策の成果を検証し、合併10年間の総括を行うとともに30年先を見据えた計画づくりを行うというふうに言ってるんですが、どのような形で総括して作成に当たるのか。先ほどは目標指標の8割方達成しているというようなお話もあったんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の総合計画の策定に当たって、その前段として各課でまとめている統計資料、そういったものについてもどういう形で推移してきたのか、そういうものをまとめております。先ほど市長の答弁の中でも76項目中、55項目で8割以上の達成率、26年末の数字でありますので、2年後ということを考えればそれなりの成果は出てきていることと考えておりますけれども、さらに現状を各課でしっかり把握することが必要だと思っておりますし、その上で実績に基づいた事業展開や施

策立案、そういうものを行っていきたいと思っております。

また、第2次総合計画では、よりわかりやすく施策の達成状況を示す目標指標の設定とか、やはりその目標値の根拠、そういったものも含めて見直しをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私、目標数値に注目しておるんですが、この目標数値は総合計画作成のどの段階で設定するのか、作成に今当たっている審議員の皆さんも目指す目標数値の考え方、この根拠がなかなか、ある程度示していただかないと現実的になかなか作成に当たれないんじゃないかなというふうなことも感じるんですけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

基本的には、基本計画を策定する中で目標数値も設定するものというふうに思っておりますけれども、ただ現状の設定の仕方を見てもやはり目標数値の考え方とか、なぜその目標数値にしなきゃいけないのか、そういったところがまだ十分整理できていないように感じておりますので、最終的な基本計画の策定に向けては、そういった数値の考え方というのをしっかり整理していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いろいろ目標数値をどの時点でどう上げてという作成の手法もいろいろあるんじゃないかと思うんですが、私個人的に一般的な考え方もかもしれませんが、まず問題点は何かというふうなことから始まり、数字はデータで立証して、次は問題点を解決する具体的な対案等の解決策は何か、いわゆる処方箋、それから3番目には、いつまでにどのぐらいの成果を達成しようとするのかというふうに考えますと、いずれにしましても今こういう数字であるから今後こういう数字にしたいというふうなことになるわけですので、第1次の計画の総括、この数字、きちっとしておかないと基礎的なものをきちっとしてから進めないとなかなか進まないんじゃないかなというふうなことを感じるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

まさに議員のおっしゃるとおりと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

課長、先ほどもお話ありましたが、目標数値の設定に関してですけども、策定方針の中で、先ほどのように計画の中間でも成果と取り組みを検証しやすくするとともに計画終了時に達成状況を客観的に評価できる計画づくりをするということですから、これを期待しておりますが、特に計画中間での成果と取り組みの検証、この計画の中間というのは、どれぐらいのスパンで考えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

その目標数値にもよるんですけども、本来であれば毎年見直しするべきというふうに思っておりますけれども、目標とする数値の統計のとり方によっては、2年に1回、3年に1回という、そういう場合もあるかと思っております。

ただ、いずれにしてもやはり先ほど議員おっしゃったとおり今の当市の課題は何か、それをどういうふうに解決していくのか、その結果としてどういう数値をどういうふうに改善したいのかというそういう目標数値のあり方というのをしっかりしなければそれも見えてこないというふうに思っておりますので、第2次の総合計画では、その目標数値のあり方というのは、しっかり詰めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今回の計画期間というのは、平成29年度から平成35年度までの7年間ということですが、内容によっては、私は1年に1回の成果と取り組みの検証ではまずいというふうに思っております。特に、投資と効果を求められているところ、少なくとも毎月の成果を検証しないとすぐに改善とか見直しが図れるというふうにならないわけですので、先日の保坂議員の権現荘の経営に関する指摘もありましたけども、そのようにもっとサイクルを早くしなきゃいけないんじゃないかと思うんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合計画で目標とする指標というのは、事業のまた指標とは違うものというふうに思っております。やはり大きな流れの中で、いろんな施策をする中で、ある数字を、ある状況を変えていくという部分だと思います。

それとは別に各課で行っている事業、その取り組みがどうなのかというそういう部分については、やはり議員おっしゃるように毎月の確認というものも必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

総合計画の場合は、若干現実の実施計画と様子が違うんだということであればそのとおりかと思えます。

もう一点つけ加えて、実施計画上の問題で、数値指標で結構なんですけど、民間の我々の感覚からすれば、1つの政策事業においてどれだけコストを投入したか、人件費や維持管理費も含めて、まずこの数値、それから、そして具体的にその政策事業において何が生み出されたのか、ここも数値です。そして、成果として市民にどのような利便がもたらされたのか、ここも数値で見れたらいいと思うんです。そうしないと適正な評価ができないというふうに思うわけで、1つの政策事業に関して3つの数値指標が必要になるんじゃないかなと、またお願いしたいなと思うんですが、これは総合計画と違って実施計画で結構ですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現状では、事務事業評価というものをやっております。事務事業評価については、実施計画事業を対象にしてコストとか活動指標、それから成果指標、それから事業の有効性とか妥当性、公益性、そういったものを評価する制度ということで実施しております。

ただ、現状で見ると、やはり評価することが仕事になっているような状況も見られますので、やはりこの事務事業評価というのをもう少し有効的に実施できるような形に持っていかなくちゃいけないと思いますし、そういう中での事務事業評価での成果指標のとり方、そういったものも非常に重要になってくるというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今まで以上に、目標指標、目標値達成に向けて取り組みが求められているわけですので、この総合計画が適切に運用されるためには、まず職員がその内容をよく知ることが必要であります。その辺は大丈夫ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

課長を中心に職員に対してそのような指導がなされているものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

また、それから現場の職員の実践的なアイデア、これを総合計画に生かしていただきたいという思いがあるわけですが、計画策定過程への職員の参加機会、これについてはどのように、今回の総合計画作成に関して、庁内体制ということになりますかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

具体的には、各課でしっかり取り組んでいるものと思っておりますけれども、庁内体制としては、総合計画の庁内の策定委員会を設置しておりますし、審議会の場面では、部・課長が出ていただいたり、それから今、基本計画のほうの審議をしておりますけれども、その場面では各課の担当者も出席して審議に加わっていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

第 1 次総合計画の後期計画の途中で、今後 10 年間の長期財政見通しが策定され、厳しい財政見通しが示されたわけですけれども、既に決算が終わっている平成 25 年度、26 年度を見ますと、この見通しどおり動いているのかどうか、非常にギャップも感じているんですが、この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

後期基本計画を策定したときに 5 年間の総額ではありますけれども、財政見通しを策定しております。この 5 年間の予算・決算の数字と比較してみますと約 190 億円、5 年間で 190 億円程度、非常に大きな数字ですけれども計画よりもふえた状況となっております。特に歳入では、交付税や国庫補助金、市債、そういった面でふえておりますし、歳出では、投資的経費が非常に大きく伸びております。そういうことを考えると、やはりこの 5 年間で新幹線関連の事業とか、公共施設の耐震化、そういったものに取り組んできた結果というふうに分析しておりますが、その一方で、実質公債費比率はよくなってきているということで、この結果というのは、やはり国の政策が非常に大きく関与しているものかなという、途中段階では、元気臨時交付金みたいなものも入ってますんで、そういった国の政策によって、やはり地方の財政というのは、非常に大きく影響されるものという

ふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市民アンケートでは、行政サービスのあり方に関して現状くらいでいいというのと、負担がふえてもいいというので合わせて69.8%あったわけです。

ただ、今後の財政見通しからすれば現状くらいというのは、そういうものが確保できなくなるというふうなことを想定できるだけに、今後、市民に対して理解、財政の厳しさというものを理解していただくという必要が出てくるんですが、極端なことを言うと住民の、市民の意識改革も進めなきゃならないくらい厳しい時代に入るんじゃないかと思うんですが、この第2次総合計画の大きな取り組みとしてその辺も必要になってくると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、総合計画期間内の財政見通しも策定を進めております。財政が厳しくないということは、交付税をもらってる限り絶対ないんですけども、ただ財政が厳しいから市民負担を求めるとするのは、少し違ってるとでないかなという、やはり市民との意識もあるんですけども、市民にとって何が必要かというそういう中で受益と負担の関係も出てくると思っておりますけれども。

それともう一つは、やはりまちづくりの協働という今まで行政でやっていた部分を市民の皆さん、地域の皆さんから担っていただくことによって行政経費の削減ということもできると思っておりますので、そういった方向でいろんな面でいろんな考え方で市のまちづくりというのは、今後進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

住民の意識改革はともかく、これから新たな政策の選択、これまでの事業の見直しを行っていくためには、今まで以上に市民の理解と協力が不可欠になってくるわけですので、特に財政状況に関する認識というのを市民と共有した上で政策選択、それから政策判断、これをしていく必要があるんじゃないかというふうなことを思っておりますので、いろんな手法を使ってわかりやすく説明をしていただきたいというふうに思います。

では、3点目について伺います。

新潟県100の指標に関するところですが、「統計いといがわ」でもかなりの項目にわたって数値と県内順位が掲載されておりますので大変参考になっておりますが、欲を言えば、この順位はどんなことでこの順位なのかという考察があれば非常にわかりやすいんですが、かかわっている人、

市民の士気、こういうものも上がってくるんじゃないかと思うんですが、これは統計の中で考察するというわけにはいかないんでしょうか。別のところでそういう解説等もしていただければと思うんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

井川総務課長補佐。〔総務課長補佐 井川賢一君登壇〕

総務課長補佐（井川賢一君）

お答えいたします。

「統計といがわ」のほうには、新潟県100の指標を載せさせていただいております。

また、担当のほうでは、過去の推移のほうも把握しておりまして、それぞれデータを把握してるところでございますが、その中身について考察というところまでは至ってない現状であります。

ただ、いろんな施策を立案する際には、このような実態を踏まえて、それぞれ事業計画等を立てていく必要がある。それは各課においてやられているというふうに判断しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

時間がありませんので、二、三お聞きしたいと思うんです。

まず順位の低いのは、女性の就業率、この30市町村中、毎年28ないし29位、過去10年間余りずっと見ておるんですが、ただ上位と下位の大きな率の開きはありませんので、そんなに心配はしてないんですが、この辺はどのように見ており、またどのような対策を講じているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

女性の就業率が低い部分につきましては、県内で28位になっているわけでありまして、先般ハローワークとの懇談会、2回目でありましたけども、そこで話をさせていただいて女性の就労という部分についてのハローワークの見解といいますか認識をお聞かせいただいたところでありまして、特に糸魚川地域においては、旦那さんが正規社員として働いて、奥さんのほうが子育て等しながらパートで就労しているという部分が多いというふうにお聞きしております。就業率の向上に向けまして女性が働きやすい環境づくり、例えばワークライフバランスでありましたり、そのような対策を講じて、この就業率の改善を図る必要があるというふうにお受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

安倍政権の日本の成長戦略の柱の1つに女性の就業率向上が挙げられてるわけです。この国の政

策と合わせて向上させる必要があるのではないかというふうに思います。

それから次ですが、水稻の収量、ここ10年ぐらい毎年30市町村中28位ないし29位、この水稻の収量、10アール当たり480キログラムくらいに対して県平均が550キログラム、1位と2位の燕市、弥彦村が590キログラムですから反当たり60キログラムで、糸魚川市の8俵と燕市の10俵ということ、こちらはどのような対策を講じているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

水稻の収量とあわせまして、経営耕地面積も同じくらいの順位で県内28位となっております。糸魚川市の10アール当たりの収量が約480キロ、8俵でしょうか、県の平均が550キロですので約9俵近いというふうな数字となっております。当市の地形の特徴であります中山間地域でありましたり、急傾斜地でありましたり、あるいは平野部が少ないというふうな状況の中から、またそれぞれの圃場が持つ特徴もございます。田んぼの深度が浅いとか砂質が多いとか、いろんな水田での特徴があるかと思っております。いずれにいたしましても農業経営支援センター、あるいは県の糸魚川地域振興局農林振興部、JAと一緒にになりまして収穫後も集落懇談会にどんどん出ていっておりますので、そういうところで品質・食味を高める技術的なポイントを指導してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

新潟県で開発された新品種の「新之助」、いよいよ来年、平成29年度から一般の販売が開始されるということなのですが、こちらの品種は糸魚川の風土に対してはどのような影響、いわゆるどんな品種なのかちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

新之助につきましては、昨年も市内で一部、試験的に栽培をしていただきました。今年度につきましては、約2.1ヘクタールぐらいが割り当てになるというふうな見込みでありますので、新之助の研究会を立ち上げて取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。特に、収量面におきましては、コシヒカリと同じ程度だというふうにお聞きしておりますけれども、一般的に暑さに強い稲は寒さに弱いというふうなところもございますので、栽培の場所、標高をどれぐらいにすればいいのかということも見きわめながら研究会の中でみんな勉強していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

それから、課長、先ほどおっしゃいました 1 農家当たりの耕作面積、これも糸魚川市の場合は 28 位、1 ヘクタールに対して 1 位の弥彦村は 4 ヘクタールですから 4 倍ですね。そうしますと 1 農家当たり糸魚川市の 80 俵に対して弥彦村の 400 俵、5 倍の収穫になるわけです。この辺からも糸魚川市の稲作と申しますか農業も見えてくるような感じですが、売り方とか稲作以外の農業、これも視野に入れた対策が必要かと思うんですが、その辺についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

経営耕地面積も県内では低いほうになっておりまして 28 位でございます。そういう中で反当たりの収量も低いということで、どのように農業の所得を伸ばせばいいかというふうなご質問でございます。

今、新潟県では、新潟スタイル園芸の促進ということで、早生のお米を栽培し、収穫した後に園芸を取り組むというものが試みられております。昨年、糸魚川市内の農家さんにおきましても米の終了後キャベツを栽培されたというふうなことが、新潟園芸スタイルの一部の取り組みだろうというふうに考えております。

また、つくる時期を分散することによって農機具等を効率的に使うということも、コストの低減の中では考えていく必要があるなと思っておりますけれども、いずれにしましても米価の関係もございまして、農業を取り巻く環境は厳しいところでございますけれども、関係機関と一緒に農業所得の向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。いろんな数値から糸魚川市の強み・弱みも見えてきますし、また数値の裏には市民全体の暮らし、あるいは個々の生活も見えてくるわけですが、教育とか福祉はなかなか数字でははかれない側面もありますけれども、行政もこれからは経営的に見ていかなければならないところも非常に多いだけに、経営とは数字であるというふうな考え方も大いに取り入れていただいて第 2 次総合計画策定に取り組んでいただきたいというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開、11 時 15 分といたします。5 分間の休憩をお願いします。

午前 11 時 09 分 休憩

午前 11 時 15 分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、地域医療体制の充実について。

先ほど渡辺議員からもありましたように、第2次総合計画の市民アンケートによりますと優秀な医者の定着（安心して住める、安心できる病院）とか、税金を投入してまで整備した救急医療機関のほが殿様商売している。糸魚川でしかできないような医療等を考えて特徴のあるまちづくりにしてほしいという意見もございますし、地域医療体制の維持・充実、救急医療体制の維持・充実、大変重要であるが7割以上でした。

そこで、以下の項目について現状・分析・課題及び今後の取り組みと将来の方向性についてお伺いします。

- (1) 医療施設等設備整備について。
- (2) 救急医療体制について。
- (3) 医師確保対策について。
- (4) プロジェクトチーム医療の設置について。
- (5) 糸魚川地域のドクターヘリ運航事業について。
- (6) I I S A 通訳（医療）の充実について。

2、交流いきいき産業のまちづくりについてお伺いいたします。

それも同じく第2次総合市民アンケートでは、働く場に恵まれているかの問いに、思わないの割合が70.6%であります。就職、企業誘致、起こす起業の雇用創出の特徴的な意見の中には、既存企業、新しい仕事をふやしてほしい、資格を生かす職場がない、賃金も安い、自然環境の保護と有効活用、その分野の職業や仕事の創生とか特徴的な意見がございました。

そこで、以下について項目により質問させていただきます。

- (1) ものづくりに携わる人材育成の推進及び優遇制度の調査・検討について。
- (2) 企業支援室の成果及び糸魚川産業振興センター（I t o - B i z）の創設について。
- (3) 職業訓練校の充実及び経営者育成学校の創設について。
- (4) 企業の地方拠点強化策及び県やN I C O（にいがた産業創造機構）との連携について。
- (5) クラウドソーシング導入・在宅ワーク推進及びテレワークによる働き方改革について。
- (6) ジオパーク資源等を活用したD M O 観光地域づくりについて。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市の地理的、地形的な要因もあり、極力市内で完結できる医療体制が必要であり、糸魚川総合病院においては、地域包括ケア病床と高度治療病床を整備したところであります。

2点目につきましては、糸魚川市医師会及び糸魚川総合病院の協力を得る中で365日24時間の救急医療体制を維持いたしておりますが、市内開業医の高齢化や糸魚川総合病院の医師の減少などにより救急医療に携わる医師の不足が課題であります。

3点目につきましては、開業医の確保はもちろんでありますが、特に病院勤務医の確保のため当面は、可能性の高いより多くの研修医から研修先として選択いただけるよう取り組んでおります。

4点目につきましては、糸魚川総合病院では、あらゆる診療科目と連携できる総合医療医を育成していきたいと考えており、市も支援してまいります。

5点目につきましては、本年秋に、長岡赤十字病院を基地病院として2機目のドクターヘリが配備されますので、現在より到達時間の短縮が図られるものと考えております。

6点目につきましては、現在、市内4カ所の医療機関で通訳を実施いたしておりますが、今後は市内のより多くの医療機関でサービスが受けられるよう関係機関と協議してまいります。

2番目の1点目につきましては、これまでも中小企業大学校等における研修費用の助成のほか、資格試験、受験料の助成、職業訓練校における訓練への支援を行ってまいりまして、今後もさらなる調査・研究を進めてまいります。

2点目につきましては、企業支援室では、商工団体を初め関係機関等と連携を図る中で、なりわいネットワークや創業支援ネットワークなど企業支援の連携拠点としての役割を果たしているところでありまして、糸魚川産業振興センターの創設は考えておりません。

3点目につきましては、今後、職業訓練校におけるメニュー拡大を進めていくとともに次世代ビジネスリーダー育成研修を支援してまいります。

4点目につきましては、国において促進する税制措置が創設されておりますので、今後とも情報収集を行ってまいります。

また、引き続き、県やNICOと連携いたしまして、新商品開発等を図ってまいります。

5点目につきましては、このような働き方のニーズも高まっていくことが予想されますので、今後、人材の育成・確保が必要と考えております。

6点目につきましては、観光協会を核としてDMO観光に取り組み、交流人口の拡大を図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、部長、課長の答弁もごさいますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

1番目の医療関係でございますが、医療関係の施設で、糸魚川病院並びに先ほどありましたように国保診療所とか補助ありますが、近年の26年、27年度の具体的な、28年度も含めて具体的な補助金、どれだけ支出してるんか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、施設整備につきましては、平成27年度で市長答弁のほうからありました地域包括ケア病棟の整備、これにつきましては、県の補助金を活用する中で整備しておりまして、市としての補助金は支出いたしておりません。本年度につきましては、術後の管理、ハイケアユニットの部分につきまして整備させていただいております。これにつきましては、今、予算上は3,000万というような形で市の補助金が出ておりますが、今の段階の決算見込みの中では、それより下回るという状況でございます。

そのほかに医療機器整備といたしまして26年度におきましては、眼科手術システムといたしまして、国・県・市の補助金合わせた中で1,512万円を補助金として支出させていただいております。27年度、本年度につきましては、内視鏡画像サーバーということで、これも国・県・市合わせて1,115万2,000円の見込みでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その件につきまして、国保診療所も含めて先ほど渡辺議員にも質問がありましたように、今では地域医療、糸魚川総合病院から研修医が、送って実践の場ということでやられてる。MRI・CTも整備されて、先ほどの答弁を聞くと全市的に広く周知していくということなんです。この医療施設等設備で糸魚川総合病院もかなり整備されておるんですが、先ほど、下のほうにも関連してくる医師不足も含めて、これが全部補助金で賄って、県から国から市の補助金、負担も含めて医師の確保というの、本当にこの場では救急専門医も含めて、この施設が使われるんですか。使われている、回っているんでしょうか。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

先ほど申しました施設系の整備の部分の中の包括ケア病棟につきましては、今までは急性期と慢性期との病床しかなかったわけですが、回復期ということで一旦、急性期から回復途中のところであった方を回復期の病床において在宅へ向けたそういった支援をするというような病床をつくる中で機能させていただいておりますし、ハイケアユニットにつきましては、やはり救急医療の携わる医師の関係もございますので、ただ全面的に直ちに活用という形ではございませんが、なるべく重症の方であっても事後のケアができる病床となっておりますので、そういった部分の中で活用させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

救急病棟とかいろんな形で整備されておるんですが、糸魚川総合病院への重症の救急の搬送数、これがちょっと糸魚川総合病院から管外への転送も含めて患者数の推移、その辺を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

ここも年度ではなく、年の扱いということでございますが、直近の平成27年におきましては、救急車で糸魚川総合病院へ搬送した件数につきましては、消防のほうから1,775件というふうにお聞きいたしております。うち、市外への搬送ということになりますと246人が市外のほうへ搬送というふうな状況になっておるところでございます。総数につきましては、過去二、三年につきましては、ほぼ同程度、ふえても微増・微減そういったところでございますが、若干、27年度の市外搬送につきましては、若干ふえてるというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

重症患者も含めて市外への搬送もふえてる。救急外来医ERも糸魚川総合病院にはいない。医師確保で365日24時間体制をやってるけど、消防のほうで救急救命士によると医師がいないと県中や富山のほうへ搬送されるということで、やっぱり樋口糸魚川総合病院の院長もおっしゃってるとおり研修医だけじゃなかなか難しいんで、人への投資、これは本当に厚生連に頑張ってもらわなければならないんですが、今度また制度が変わって、県によると、平成29年度から始まる新たな専門医制度、専攻医、これがまた初期の臨床研修後、専門医を目指して研修を行う専攻医の県内定着を含めてやっとならるんですが、その辺の今の状況、富山大学、新潟大学、ほかの大学からの連携も含めて医師の確保というのは、その辺でできてるんですか。今の状態と今後どうやっていくのか教

えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

医師の確保につきましては、これまでの議会の中でもお答えしてましたように、やはり富山大学、新潟大学からの派遣の比重が大きいです関係ございますので、そのつながりを大切にしながら進めてまいりたいという基本的な考え方は変化はございません。

また、昨年の27年度、本年度に入りましてから厚生連が横浜市立大学のほうに寄附講座を設ける中で、今現在、月2回、救急を担当する医師ということで派遣いただいている部分があります。そういった形で新幹線開業、時間的な制約が解消されてきましたので、そういったものを活用しながら進めてまいりたいというふうに考えておりますし、なかなか大学を通じる中でも大学の残る医師数がふえてない状況の中では厳しいという部分もお聞きしておりますので、やはり糸魚川市出身の方、またそういった縁故をうまく活用する中で働きかけできないかという部分につきまして、糸魚川総合病院と協議をして進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

先ほども答弁ありましたように2005年、2006年ですか、泌尿器科の常勤がいなくなって、耳鼻科も2012年ですか、それと昨年は、2015年、脳神経外科が非常勤になった。この辺でまた、次のこの4月からとかそういうのは大丈夫なんでしょうか。その辺情報としてはあるのかどうか、その辺教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、4月からの分につきましては、糸魚川総合病院から正式な部分での情報提供という形ではいただいておりますが、一部、内科系の中の一部の専門について、今検討してるというお話は、糸魚川総合病院から直接ではございませんが、私どものほうに情報として入ってきてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今のところ情報が入ってないというんで、予算委員会までに調べておいていただきたいと思う

っております。

それで、先ほど医療関係で国保診療所、建物も含めて機械、MRI、CTも配備したと。私は今度、糸魚川総合病院に対して365日24時間体制の開業医さんからも入っていただいて、開業医との連携も含めてやっぱり必要になってくると思うんで、その辺になれば医療施設等の設備も市からの補助とかでなく、みんなでまとめたチーム医療ができ上がってるんだから開業医の皆様にも整備の費用とかいろいろな面で補助金、県があるかどうかわかりませんが東京都ではあるみたいなんですけど、その辺も必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、糸魚川総合病院と限らず病院につきましては、やはり地域医療を担っていただく中核的な施設という位置づけの中で施設また機器等の整備に対しても支援させていただいておりますし、開業医の皆様方につきましては、開業されるときに1,000万を限度でございますが、そういった補助金制度を設けさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

開業をされるときに1,000万上限で、そのほかにやっぱり機器とか購入も含めて、また入れかえもいろいろな形で必要になってくると思うんで、そのときに補助金も含めて助成、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

支援できれば一番よろしい部分でしょうけど、やはり開業医の皆様方も医療機器の更新等もいろいろ多数ございます。それを全て市側のほうで支援ということはなかなか難しい状況だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も検討していただきたい。365日24時間体制、開業医の皆さんから糸魚川総合病院にも月何回かですか、2カ月に1遍ぐらいですか、その辺も含めてやっておられる方ってやっぱり必要だと思うんで、民間とも公民連携です。それは必要だと思うんですが、その辺、市長いかが

ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に他の都市と違って糸魚川は、開業医の皆様方と糸魚川総合病院との連携が非常によくやっ  
ていただいて、本来ですと救急医療の当番は回っていくんですが、糸魚川はそうじゃなくて、糸魚  
川総合病院に皆さんが入っていただいて受け持っていてのやり方でございます。そのような  
ことから集中的に糸魚川総合病院に支援をさせてもらってる部分がございます。そういった形で民  
間の皆様方も開業医の皆様方がそういう形になってくということになれば、またそれはそのときに  
考えなくてはいけないんだろうと思ってるわけでありますが、現在は、集中的に糸魚川総合病院で  
取り組んでおるのが実情でございますし、まだ今いろいろ情報交換をさせていただく中においては、  
しばらくはこのままで行きたいという話も聞かせていただいております。

そういうようなことで、やはり救急医療が一番大切だなと思ってる次第でございますし、それ  
に対しては、市も積極的に連携をさせていただいて市民の安全・安心につながるようにしていきたい  
と思っております。

そして、やはりもうしばらくはまだ続くんだろうと思うわけでございますが、医師の偏在、私は  
医師不足じゃないと思っております。医師の偏在性だろうと思っております。なかなか我々のとこ  
ろへ来てくれない、それに対してどのようなことを行えば医師が来ていただけるか、その魅力づく  
りというのも大切だろうと思ってるわけでありますので、今進めておる段階でありますし、またい  
ろんな情報収集をする中で、少しでも糸魚川市に来ていただけるような環境をつくっていきたく  
と思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで、先ほど横浜市立ですか、の救急の方は、週に2回ですか、来ていただける、その辺なん  
です。1本釣りだと思っんです。今、富山大学からもなかなか来られない、新潟大学も含めて自分  
たところへばっかり行って、そのちょうどすき間ですか、糸魚川市にはなかなか来ていただけない。  
そうなればやっぱり1本釣り、民間の力を借りて、いろいろな医師の情報、医師の求人、エムスリ  
ー、エムスリーグループ、これとリクルートドクターズキャリアとかいろいろな形で何万人も登録  
医師、これのエムスリーには医師会員20万人以上、リクルートの関係では30年以上の実績で非  
公開求人が1万件以上もやってられる。そこになってくると思っんですよ、今度は、医師不足なら。  
本当は厚生連が頑張ってもらって、違う厚生連同士で定着していただければいいんですが、その後  
やっぱり糸魚川市全体の医療なんで、やっぱり糸魚川市も絡んで、県も含めて、今、県かなりいろ  
いろな形で若手の医師確保定着でやってもらったり、民間医師紹介等の活用促進で今回の適正、昨  
年から乗ってきています。その辺も含めて、市・県・国も含めて民間活用も含めてやっぱり医師確

保をやっていかないと、私は糸魚川市定着、移住・定住なんておかしいというぐらいになると思うんです。このぐらいやっぱり医師確保に努力していただきたいと思います。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

医師確保につきまして、民間の紹介所、そういった部分につきましては、確かに制度的にはございますし、今、議員のほうからお話ございましたように県のほうでも補助制度的なものは持っていることは承知しております。そういった部分につきましても医師確保の1つのための選択の手段だということも認識しております。

ただ、民間の紹介所を通しますと、やはり面接等はしますが、こういった人材の方がおいでいただくのかという部分がなかなか難しいという面も、この辺は十分慎重にしていかなきゃいけないというふうに認識してございます。

なお、先ほどちょっと申し上げた、私が言い間違えたのかしれませんが、横浜市立のほうには、週にではなく月にということで、申しわけございません、私が言い間違えたのであれば訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

やっぱりその辺も含めて厚生連としっかりとタイアップしながら医師確保の努力していただきたい。

それと、今、研修医が6人、昨年も6人ですか、来ていただいている。その方々とも国保診療所と行き来、私は開業医の方々とも一緒に連携しながら、研修医だけでなく違う方々も必要だし、先ほどもありましたようにふるさとから出た、それで医者になっている方、その方々来てもらえれば一番いいですけど、その方のネットワークも必要だと思うんです。こういう人がいますよと紹介してもらって、糸魚川に来てもらうような、今、新幹線時代で横浜からすぐでしょ、月2回ですか、月2回は週2回ぐらいにしていいただきたいと思いますし、やっぱりその辺必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

先ほど申し上げました、やはり糸魚川市につながるのある方の情報、そういったネットワークを活用するということは大変重要だというふうに認識しております。

ただ、こういった診療科目が必要なのか、そういった部分につきましては、糸魚川総合病院というんな形で協議を進める中で実現に向けた努力をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

先ほどもありました総合医も今、糸魚川総合病院から育てていただいて3人ぐらいですか、ぜひその方々も糸魚川総合病院に定着していただく方々も育成しながら、そのほかの、やっぱり救急病棟もできとるんでER、やっぱり救急外来医も含めて1本釣りくらいできるような形でやっていただいて、研修医もまたそこに入ってくると思うんで、大事な医療をぜひすばらしい形にしていきたい、こう思っています。

それと、ドクターヘリ、長岡の赤十字病院にこの秋ですか、そこへ行くと糸魚川地域から本当に近くなるんですか。その辺やっぱり本当に重症者になればドクターヘリですよ、県中にも運べるでしょうから。その辺の短縮、どれだけ短縮されるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

現在、新潟大学の医歯学総合病院から1機目の場合では飛んできます。その場合、約150キロ、飛行時間で45分ということでございます。それが今、長岡の赤十字病院という2機目のものであれば約100キロメートル、約30分ぐらいという飛行時間になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それではやっぱり遅いんです。2機目の導入、妙高市と糸魚川市も含めて要望を県に上げたけど2機目は長岡に行っちゃったと。空白の時間ができてくるんですよね、さっき100キロなら圏外なんですよ。糸魚川市の途中までしか、30分ぐらい本当に市振の先まで30分で行けるんですか。こっちには3,000メートル級の山もありますが、その辺間に合うんでしょうか。その辺やっぱりしっかりいいヘリコプター買って下さいぐらい言ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

その辺のことにつきまして、できるだけ早目に新潟県の西の端をカバーしたいということで、県のほうでは、1機目の機体よりも高性能の飛行速度の速いものを選定をして、できるだけ早く到着できるような体制を検討しているというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

1機目、新潟、2機目、長岡、県議会議員の答弁を聞くと糸魚川、富山とか長野との連携でないんですね、群馬と長野との連携ばかり言って、富山の連携含めてこっちのほうの北信地域の長野との関係も含めて、やっぱりこの辺をしっかりと3機目も目指してやっていただきたいと思うんですが、その辺、市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

隣接県との連携につきましては、私どもとすれば地形的にやはり富山が一番近いわけでございますので富山の連携という部分につきましては、この1月の中でも市長ともども県のほうの部長のほうにそういった要請に伺わせていただいております。県のほうにおきましては、先ほど消防長が申し上げましたように2機目の長岡配備、これを高速速度が速いものを入れて、富山の、こちら入善、泊部分も30分圏内に入れる形の中で連携を富山のほうに打診をしたいというようなお話では聞いております。私どもとすればそういった部分は、富山は配備になっておりますので、1日も早いということで1月にお願いにお伺いした状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。そこまで高速化していただいて富山も含めてやっていただいている、ありがとうございます。じゃあ3機目いらぬがになりますかね、その辺も含めて1機目、2機目使っていればなかなか今度は富山との連携、長野の連携も含めてぜひお願いしたいと、こう思っております。

それと、次に入らせてもらいますが、ものづくりの関係で中小大学校とか受験料、職業訓練並びにやっとならぬんですが、私一番言いたいのは、ものづくりでふるさと就職支援だとかやってるんですが、地元にはUターンではなく、地元におりながら、ふるさとにおりながら今ものづくりに対して修行中、そういう二、三年、一人前になるっちゃその辺も必要だと思ふんで、その辺の若者・女性も含めて優遇制度とかその辺も含めてあるのかどうか、やっていただきたいと思ふんですが、予算とかならぬと思ふんですがその辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今お話のような技術の中では、ヒスイの加工もありますでしょうし、それから能生での菅笠づく

りですとか、それから能生地域の方でも着物の帯をしっかりと家内工業的に取り組んでおられるというふうな、そういう技術をしっかりと持ち、なりわいとされてる方々も多くあると思います。そういう方々の技術をどのように伝承していくか、その伝承についての一部人件費的な支援をというふうなお話だというふうに受けとめておりますけども、人件費を直接支援するというメニューは、今のところございませんけども、新たなそういう事業を伝承するという事業、その資金調達方法といたしまして、今、新年度で考えておりますクラウドファンディングというものを考えておりました、その中で人件費の資金調達も可能となってきておりますので、そういう情報も収集して、またお話してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

クラウドファンディングのほうは、またソーシングも含めてやらせていただきますが、本当にものづくりいっぱいやっとなと思うんですわ。そこで、日本料理も含めてさっきの和菓子とか大工さん、板金とか左官、瓦、今言われたヒスイ加工とか職人の方々も含めてやっぱり育てていくべきだと思いますんで、それで職業訓練校は予算にも載ってますが、拡充されるんでしょうか。その辺も含めて、ものづくりも含めてやっていただきたいと思うんですが、それはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

糸魚川職業訓練校につきましては、旧の今井小学校のほうに移転し、新たな館の中で、今、訓練校に取り組んでいただいております。大工さんの見習いからパソコンからいろんな事業に取り組んでいただいておりますけども、今、議員からお話のような特殊な技術、伝統、技能等を市内の産業界、経済界でどのようなものがまた必要な職種で技術なのかというふうなところも、実は地方創生の総合戦略をつくる関係団体との意見交換の中でも、実はお話が出てきております。それらを含めて職業訓練校とも新たな授業をつくっていけないかというふうなご相談を申し上げるところでありまして、いましばらくお待ちいただいて、新たな教室の開設に向けて訓練校と取り組んでまいりたいというふうに考えておりますし、あわせてハローワークとの連携も大変重要になってくると思っておりますので、そこら辺も含めて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に民間とともに企業も含めてものづくりの方々も、やっぱり後継者不足でなかなか定着しないって高齢化が進んでるみたいなんで、やっぱり若者が定着できるように、女性も活躍できるような場もぜひお願いしたいと思ひまして、燕三条の地場産業振興センターも含めて燕三条ものづくり大学というので、いろんな訓練のところ、補助金の中に三条校も補助金対象になってますが、

上越も含めてどういうものが訓練校にあって、一覽で見られるような形というのは、ものづくり大学みたいなのは必要だと思うんですね、今こそ。近隣の、富山も含めていろんな形で半径どのくらいにするかあれでしょうけん、その辺もまとめてこっからでも通える補助も含めてやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

燕三条地場産業振興センターのカリキュラムは、非常に多岐にわたっておりますし、カリキュラムを実施している団体も幅広くございます。特に、大専校でありましたり、専門学校でありましたり産業センターでありましたり、そういうところが主体となった事業内容が多いというふうに感じておるところでございます。

当市におきましては、先々日の土曜日の日、糸魚川創業支援ネットワークによりまず初めての体験セミナーを開催させていただきました。これは産業競争力強化法に基づきまして、糸魚川市が創業支援ネットワークを立ち上げさせてもらって初めてのセミナーでございましたけども、関係者も含めると約40人お集まりいただきました。日本政策金融公庫の方から創業の準備や成功のための秘訣のお話をお聞きしたり、また市内で創業された具体的なお名前を出しますとフェルエッグさんでありましたり、ブオーノさんでありましたり、この2人から体験談をお聞きして、これから創業したいという方々の参考になる話をお聞かせいただいたところであります。

今、ご質問のようにそういう学校なり組織をつくる必要があるんじゃないかというふうなお話をいただいたわけではありますが、引き続き、新しくできました糸魚川創業支援ネットワークを十分に活用して効果を出していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそれも本当に拡充しながらいろいろな若者、女性も含めて定着できるような、本当に効果の出るような企業をどんどんふやしてチャレンジできるような体制をしていただきたいなところ思っております。

飯田市では、ものづくりから事づくり、さらに物語づくりなんです。糸魚川市は物語をどうつくるかということで、物語の深化をやっております。チャレンジ精神なけりゃできませんので、ぜひその辺も含めてやっていただきたいところ思っております。

それと、企業支援室も含めて建設産業常任委員会で市外調査をやって委員長から報告がありましたように、OkaBiz、岡崎のビジネスセンター並びに、私も一般質問で取り上げていた静岡の富士市産業支援センター、それと岡崎でもありましたAmabiz、天草市独自で市長のトップダウンで企業支援室みたいなのを立ち上げて、それ専門にやってるんですよ。私はやっぱり市職員なら二、三年でかわったり、変更しないように独立した形にするか、市で10年ぐらい専門家にや

らせるのが、本当は商工会議所がやっていただければいいんでしょうけど、そうではなく独自のものが必要だと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

独自の組織につきましては、1回目の市長答弁の考え方のおりでございますけども、前段申し上げましたように支援ネットワークができましたり、あるいは地方創生の関係で産学官金労言の関係団体との意見交換会も今まで以上に進めさせていただくことができました。そういうことで、関係団体と今まで以上に連携して取り組んでいきたいというところでございます。

それから、地方創生の特別委員会でもいろんなご提案をいただいております。特に、商工農林水産課のほうでは、産業部門でいろんなご提案も受けておまして、昨年、当課の主査以上につきまして3班体制で勉強会をさせて、先進地のほうも行かせました。1つの班では、起業家創出支援事業の調査ということで、1つの班が起業家オーディションや起業家塾、インキュベーションなり勉強させてもらってきております。それらの勉強の成果をこれから深めて具体の事業に取り組んでいきたいというふうに考えております。

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

再開を午後1時といたします。

+

+

午前11時59分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、五十嵐議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

午前中に引き続きやらせていただきます。

先ほど齊藤課長よりありましたが、支援ネットワークとかいろいろな形ですばらしい企業が出てきてるということで、なりわいネットワークとか、ものづくりネットワーク、この前の定例会も我々も参加させてもらいまして、すばらしい企業の方々いろいろな形でやられてるということはすばらしいんですが、私が提案してるのは、建設産業常任委員会でも行きました岡崎、OKa-Biz、これはなりわいネットワーク、ものづくりネットワークは、すばらしいのでネットワークやられてる。そのほかにもいろいろな商店並びに企業もある。そういう方々も含めながらどうコーディ

ネットやプロデューサーも含めて相談に乗るかどうか。岡崎では、相談件数年間で1,400件、リピーターが70%、やっぱり相談者から高い評価を受けてる。そういう方々は一生懸命で、次に出てくる県とかNICOに結びついていたりしてるんですが、そうでない方々も誰と誰を結びつけてコーディネートして、どう起業化も含めて売り上げを伸ばすか、いろいろな形でやっていくのがIt o - B i zなんですけど、その辺も必要だと思うんですがいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

議員言われますように、ごもっともだと思っております。ネットワークに加入していない皆様方、それ以外の方をどのように結びつけていくかということにつきましては、市長の1回目の答弁でもそういう組織はつからないという答弁はさせてもらっておりますけども、やはり関係機関等の連携を今まで以上に密にして、掘り下げてそういう声をすくい上げ、ネットの中でトータル的にコーディネートしていくかということが大変重要になってくるんだろうと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう仕組みづくりというか事業体ですか、その辺も含めてプロジェクトチームかワーキングチームに結集して、またやっていただきたいと、こう思いますし、どこが主体になるかも含めて、天草市みたいにAma - b i Zで市長のトップダウンとかもありますんで、いろいろな面で調査研究していただいて、企業がやっぱり糸魚川市で起業したいという気持ちになっていただくようなのと女性・若者が糸魚川市に来て働きたいなということも含めてぜひやっていただきたいと。

それと、NICOに、ものづくりネットワークを含めてちょっと勉強させてもらったんですが、その中に新潟県のNICOがやってるよろず支援拠点、疑問に思ったことがあったら気軽に相談してくださいよということで、上越地域担当とかコンサルティングの人だとか担当もいますし、相談は無料で回数制限なし、解決まで何度でもどうぞということで、やっぱりこういうすばらしいのをやってながら、紹介をしながらNICOさんに相談していく、こういう考えがあったら、気づいたら相談に行くという方式も必要だと思うんです。これすばらしいと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

やはり相談しやすい、話しに行きやすいという環境づくりの中によろず相談もあるんだろうと思っておりますし、また当市におきましては、NICOカフェというものも開いて相談の場を開催しておりますので、もっとPRを十分にしながら敷居の低い、相談しやすい会場づくりを努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に気軽にこういうのを考えてるんだけん、どうしたらいいねぐらいの、本当に気軽に行くような体制づくりをしていただきたいと思いますと思っております。

それと、これも新潟県の事業引継ぎ支援センター、これも後継者も含めてこういう相談もあるそうなので、やっぱり後継者、今、高齢化しとるんで若手も含めていろいろな形で、ただ先祖代々から続いとるのではなく違う外部の人も入ってもらうような、例えば田鹿麩店ですか、そういう違う全国公募ぐらいしてやっていただくような形とか、例えばですけどそういう事業者がかなりあると思うんで、それも含めて相談支援センターというのあるんですが、これも秘密とかいろいろございますが、それも相談無料、いろいろな形であると思うんですが、この辺もいかなもんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員のほうから田鹿さんというお話が出ました。非常に私も昔からの伝統、糸魚川で培ってきた伝統の品物がなくなるということは、非常に残念に思っています。それで、NICOを利用して、今ワサビの開発でありましたり、かまぼこでありましたり、いろんな部分でNICOとも連携しております。

また、NICOと連携する中で新しい技術、新しい商品開発の支援も受けておりますので、引き続きNICOとのパイプをしっかりと持って取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひNICOとの関係、県との関係でやってる方々は、かなり進んでるんですが、それ以外の方だと思っんです。本当に気軽に参加、相談していただいて、売り上げを伸ばしていただけるような本当にIt o - B i zみたいな形でやっていただきたいと思います、こう思っております。

それと、先ほどもありましたが、クラウドファンディングを活用してふるさと投資ということでやっていくということなんですが、それと含めて私が提案してるテレワーク並びにクラウドソーシング、在宅ワーク、これも本当に女性が子供を育てながら、親を介護しながらできるような、本当に今、ICT時代ですんで、その場に行かなくてもパソコンでできる時代ですので、こういう仕組みづくりちゃ本当に必要だと思っんですが、個々を育てながらどうするかというのは、お考えはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

クラウドファンディングにつきましては、先般も糸魚川信用組合さんの広報誌で、多様な資金調達で地方創生というふうな見出しの中から、クラウドファンディングを活用したふるさと投資というふうな広報がなされたと思っております。当市におきましても、このような個人投資家からの資金調達をする手段といたしまして、新年度に活用を考えておりますので、また新年度予算、予算審査特別委員会の中でもまたご説明させていただきたいというふうに考えております。

また、もう一つ、テレワーク、ICTを活用したというご提案だと思っておりますけども、実は昨年、農業関係で初めて田んぼオーナー制度というものを糸魚川市で採用させていただきました。市内に縁のある方が社長で、IT企業の方でございましたけども、糸魚川駅北口の空き店舗で事業を開始していただきました。今現在、社員が3名というふうにお聞きしておりますけども、非常に事業のほうも順調だということで、今後、ITを活用して在宅勤務を検討しているというお話も聞いております。そのようなものがどんどん進んでいきますと地元雇用、今お話がありましたように女性の雇用、あるいは首都圏からの移住・定住というところにも広がっていくだろうと思っておりますので、そういうところも注視しながら、また必要なところは一緒になって取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、海士町も先ほども話題に出ましたが、地域のICTを利活用してモデル構築事業、都心と情報をスタートして海士町と東京との双方向メディアで東京の麹町とか結びつきもありますが、本当に都内との飲食店とのディスプレイを設置して、牛だとかサザエだとかいろいろな形でやっとならということ、それでUターン、Iターンに結びつけるような、移住・定住に結びつけるような形もやっているとということなんでぜひお願いしたいと思います。

それとDMO、これ先ほどちょっと聞き逃したんですが、どういう方向なのか、県としてもかなり、このDMOを補助金つけてやっていくような形なんですが、糸魚川版のDMO方式はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOにつきましては、観光庁が今、事業を進めているところであります。簡単に申し上げますと地域の多様な関係者、いろいろな関係者を巻き込みつつ科学的アプローチを取り入れた観光地づくりを行うかじ取り役が日本版DMOということでありまして。これからの糸魚川市の観光地づくりを進めていく上では、このDMOの考え方が非常に重要だと思っております。市長が答弁しましたように観光協会を核に申請に向けた手続を進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

洞爺湖有珠山ジオパーク、これも洞爺湖町と豊浦町、壮瞥町、これも地方創生で交付金申請して9,400万ぐらいついでる。これもやっぱりジオパークを本当に利用して経済に結びついていたきたいんですよ、やっぱり。いろんなまちづくりも含めて農産物、農林水産業も含めて、商店街も巻き込みいろいろな形で、そのDMOという組織をつくりながら、このジオパークも含めてどうやっていくか、これが一番、すぐつくれっちゃあないんです。やっぱり皆さんで協力して組織を挙げてどうするか。県に聞けば本当に全部分析、地方をその辺でマーケティングの分析をしながらやってくると、県が調査して。ちょうど手を挙げるのは本当にいいと思うんで、ぜひお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今お話のあった洞爺湖町も今DMOの9,000万円が国の補助金をもらってやろうとしています。この取り組みの中にも日本全国のジオパークは関連してやっていこうという取り組みであります。糸魚川市からも「まこちゃんうどん」などを洞爺湖のほうに持ち込みましてPRする予定に今しております。スケジュール的には、今現在、観光協会が日本版DMO候補法人の登録に向けて作業中であります。できれば年度内に申請をしていきたいというように考えておりました、いずれにしてもこのDMOを中心にしながら糸魚川市の観光地づくりを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

すばらしいことをここまで具体的にやってるというのは知りませんでした、ぜひこの辺も含めて力強く、妙高に負けんように進めていただきたいと思います。

これで一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

20番（古畑浩一君）

奴奈川クラブの古畑浩一でございます。

これより一般質問をさせていただきます。

1、新幹線時代に対応したまちづくりの推進について。

昨年の12月議会でもお聞きいたしました。時間切れとなったため再度質問をさせていただきます。

(1) 新幹線開業を見据えて、長年協議されてきた駅周辺整備計画ですが、北口の空き店舗対策、南口の空き家対策についてなど、いまだ具体的な方針が示されていない。

新幹線時代に対応したまちづくりを今後、どのように進めていくのかお聞かせいただきたい。

(2) 駅南地区の都市再整備を図るべきと考えるがいかがか。

(3) 中央区地内のJR社宅が取り壊され、宅地とする計画案が示されていると聞くが、市として有効利用するお考えがあるかお聞かせください。

(4) 来年度の組織改編に伴い新設される仮称計画交通系の役割とは何かお聞かせください。

2、人口減対策事業について。

(1) 28年度予算編成に当たり重点施策として人口減対策を掲げ「具体的に実数を上げる方向で目標をしっかりと定めたい」としているが、具体的な内容、目標とする実数とは何かお答えください。

(2) 夢を叶えて、若者や女性が輝くまちづくりを実現するための具体的な施策について。

持続可能なまちづくりを推進するためには、女性の地位向上、就労条件の改善、子育て支援の拡充が不可欠。

若者の市外流出を食い止めるには、就職・男女の出会い・安定した収入・遊び場が不可欠。環境をどう改善できるか、危機感を持って取り組むべきであると思うがどうか。

(3) 地域活性化とコンパクトシティの推進について。

系魚川の半数以上の地域が限界集落となり、集落運営の危機であり、過疎高齢地域の活性化推進と維持困難な集落の集団移転、コンパクトシティへの取組は、複雑な要因が絡み合い実現は困難と思えるが、避けては通れない道である。

実態調査と集団移転について検討すべきと考えるがいかがか。

3、公立高校再編計画と魅力ある学科について。

(1) 高校の魅力づくりについて。

地域の未来を支える若者の定着は最も力を入れるべき事業です。

白嶺高校の学級減問題でも指摘してきましたが、地元高校への進学率の低下は由々しき事態であり危機感を感じるものです。

学級減が決定し、県教委の高校再編方針が発表された今、系魚川市として早急なる対策を講じる必要があると考えます。

一般的に魅力ある高校とは、学力水準が高く、国立・有名私立大学への入学が可能であること。文化・スポーツ活動が盛んで、才能を伸ばし全国大会やインターハイ、甲子園などの出場が夢ではない環境と指導者がいること。学業以外の専門知識や資格を習得することが可能で、就職に有利になることなどが挙げられますが、市当局として、魅力ある学校づくりとは何か、またどのように進めていくのかお聞かせください。

(2) 新潟県教育委員会は、高校再編成をどのように進めていくのか。市内高校の統廃合はあるのか。年次計画はどのようになっているのか。お聞かせください。

(3) 県の計画に対して地元の意向は、どの程度反映されるのかお答えください。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、新幹線開業とあわせて中央大通り線、駅南線、自由通路などが整備され、交通の流れも変化してくることから、新幹線開通後の状況も踏まえて都市計画など市全体の市街地のあり方やまちづくりの方向性を検討してまいります。

3点目につきましては、まずはJR西日本に社宅の跡地を売却する場合には、市が買い取りたい意向を伝えてあります。

4点目につきましては、建設課に新設予定の計画交通係は都市計画とバス・鉄道などの公共交通を所掌し、それらを一体的に推進していきたいものであります。

2番目の1点目につきましては、人口減対策といたしまして、新たにに取り組む事業といたしましてU・Iターン、市内就職者に修学資金の返済支援や通学の新幹線定期券の購入費用助成などを計画いたしております。目標といたしましては、人口ビジョンの中で転出抑制と転入促進による社会動態を改善する目標値といたしまして、32年度までの5年間で150人を掲げておりますので、28年度の社会現象の改善値といたしましては、30人と考えております。合計特殊出生率につきましては、32年度に1.78を目標といたしております。

2点目につきましては、新たにに取り組む事業といたしまして子供の出生を祝う商品券の支給、求人情報発信への支援などを計画いたしております。

また、就労環境の向上につきましては、企業の取り組みを支援してまいります。

3点目につきましては、人口減少や高齢化により、住民生活に必要な機能の維持が困難となっており、持続可能な地域づくりに向けた地域づくりプランの策定とあわせて市街地や中山間地を問わず、市全体のまちづくりのあり方について調査・検討してまいります。

3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

古畑議員の3番目の質問にお答えいたします。

1点目につきましては、高い学力、活発な文化スポーツ活動、就職に有利といった魅力のほか、

他校では学べない糸魚川の特色を出すことにより、市外から生徒が集まる学校づくりを進めることと考えております。

白嶺高校につきましては、県教育委員会と意見交換を実施し、魅力づくりに向けた懇談会を立ち上げることになっております。

また、市では、新年度から魅力ある高等学校づくりのため、高校独自の取り組みに支援してまいります。

2点目につきましては、県教育委員会が策定した県立高校の将来構想では、1学年当たり4学級に満たない学校は、他校との統廃合を検討し、適正化に努めるとしてあります。上越エリアにおける再編整備は、31年度から34年度の間、普通科系の高校と総合学校の高校を統合する計画2例が示されております。

3点目につきましては、将来構想では小規模であっても、ほかにはない特色ある教育活動を展開していれば存続することもあり得るとされていることから、今後、懇談会等からの提案が実現されるよう県との意見交換を継続してまいります。

以上です。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩をします。

午後1時25分 休憩

午後1時26分 開議

+

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それでは、大きな1番につきまして、今ほど市長がご答弁いただきましたように前回の答弁では、新幹線の開業とあわせて中央大通り、駅南通り、自由通路など交通の流れが変わってきていることから、新幹線時代に対応したまちづくりに向けて都市計画も含め市全体で市街地のあり方を検討していくというふうに答弁されております。この件につきましては、具体的にどのように検討していくお考えなのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

平成28年度から取り組むこととしております都市計画の見直しの中で、人口、産業、土地利用、建物、都市施設、交通、地価、自然環境、公害及び災害、景観、歴史等の都市計画の基礎調査を実

施いたしまして、市街地や中山間地を問わず、少子高齢化による人口減少社会に対応したまちづくりを全体の構想や方針を打ち出して、その中で検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

都市計画を見直して基礎調査等を行っていく、このタイムスケジュール的なものは、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

平成28年度からスタートいたしまして、2年間かけて平成29年度末までには、見直しをしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、昨年、経営団体や商工団体がテレビ等で活躍している林 修先生を招いて市民会館で講演会をやられましたよね。その際、糸魚川のホームにおりたのは、私のほか二、三人だった。駅から市民会館まで歩いたが、誰1人会わなかった。空き家が大変目立ったなど糸魚川市の第一印象を非常に寂しい町だと感じたというふうに聞いておりますが、市長としてどのように思われたかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

申しわけございません。

私、それにはちょっと出席しておりませんでしたが、そのようなお話を聞くとやはり寂しい限りであるわけでありますが、しかし、今現在、非常に1時間に1本の新幹線の中においても大勢おりるときもあれば少ないときもあるわけでありまして、平均して800から1,000を超える部分が今、1日ある現状でございますので、私といたしましては、どれだけでも多く、やはりご利用いただいて地域の発展につなげていきたいと考えておりますが、そういうような現象もやはりあることも現実と受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

新幹線の開業、それから世界ジオパーク、大変いろんなマスコミ、いろんなジャンルで糸魚川というのは取り上げられて新聞やテレビ等にも大変多く出るようになってきた。

しかし、言葉は悪いですけど、北のシャッター街、南の空き家街と言われるこの第一印象ではイメージが悪過ぎるんですよね。これをどう打破していくのか、これは実際には、開業する前からの大きな課題ではなかったかと私思うんです。今ほどの計画では、28年度から29年度までに計画を策定して、それから実施ということになっていきますよね。市長、それでは少し時間がかかり過ぎますし、宿題として考えるならば早急にも着手していかなくちゃならない命題ではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まちづくりの手法、地域の振興というのを捉えてもいいわけではありますが、その手法の中においては、やはり今、地域づくりプランを策定という形でやってまいりました。それは、我々がつくってまいりました基本構想、基本計画、実施計画とあわせながら地域ビジョンをつくってまいってきたわけではありますが、しかし、地元の人たちもそういった以前からある課題などを取り組む、そういう中において地域の活性化というの、やはりそこに住んでおられる住民の皆様方や企業、団体の皆様方の、どう自分たちの住んでおるところをつくり上げていくのは、自分たちの、どうするのがいいのかという、その辺もまとめる中で私は取り組んでいきたいという形で進めてまいりました。そういう中で、駅前通りの皆様方の、あのようなまた1つの、この整備計画を立ち上げていただいて、連携してきた部分がございます。それと同じようなことをやはり連携してやらなくちゃいけないんだろうと思っております。行政指導の中で、全てやれるというものではないと思っておるわけでございますので、その辺もずっと呼びかけてきておるわけでございますので、今そういう機運もいろいろ高まっている部分もあろうかと思っておりますので、その辺と一体となって進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長ご答弁のとおり、北口商店街、大変頑張ってると思うんですよね、イベント等も含めて。今、町なかのさまざまな講座を開いてみたり、月1回ぐらいのペースの中で一生懸命北のまちづくりというのを考えてる。問題は、南口だと思うんですよ。これは、駅南側周辺の空き家や空き地、これの実態調査というのをされたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

26年度と27年度にかけまして、南口ということだけでなく糸魚川市全体の空き家がどのような数があって、どのような状態にあるかというのを今、調査してるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

中央区周辺はどうですか。調査でそんな時間かかるのかいな。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

おおむね中央区、駅の南側の周辺については、今30件程度ということで昨年度の調査なり地元の区長からお聞きしてるところでは、そのような状況というふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

どこの区長にお聞きしたのか知りませんが、私が所属する中央区の区長にお聞きしましたら49件です。これは空き家以外に周辺の空き地というものも、これはまだほかにあるんですよ。そのようにやはり人口対策で出た定住課なんか、この辺の問題については調べてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

空き家の活用という面では、私のところが所管してることでございますのでそうなんですけども、個々に調べてはおりません。

ただ、中央区の中からでは、空き家を売買だとか貸してもいいとかというような申し込み等はございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

まるで人ごとみたいですね、何にも危機感も、これから新しいまちづくりをしていこうっていう熱気も感じられる答弁じゃないじゃないですか。地元の区長さんに聞いたら30件だったと聞いたって、49件だと地元は言ってる。いつの話をしとるんだか、調査始めると言たって定住促進で空き家等の活用を考えますと大々的に言ってたって何も考えてないじゃないですか。もともと開業前は、駅南通りはシンボルロードとして位置づけて新たな町並みを形成していくということだった

んです。

しかし、現在、市内随一を誇る広い道路は、開業1年が経過しようとする現在も空き家や空き地が軒を連ねる寂しい町並みなんです。それで、現在、大手の不動産業や建設業者の皆さんが盛んにリサーチをかけています、市外の方々。民間任せの統一性のない開発になってしまうということを私は憂えているんですよ。もともと中央区というのは、新興住宅地でした。

しかし、乱雑な開発計画によって碁盤の目のように整備されなくちゃいけないのが段違えたり、行きどまりになったり、道路の幅が違って狭くなったり、そういう開発の失敗をもう一回やるんですかと言っている。

そこで、やはり私は提案するのは、ミニ土地区画整備事業や景観条例、町並み整備事業に取り組むべきではないかというのを、これまでもずっと提案してきたんです。

例えば駅前の赤レンガ車庫、あのモニュメントをイメージシンボルとした大正ロマン風の建築や赤レンガ通りといったれんがに関するような通り、町並みに統一していく。もしくは、天津神社に通じる純和風の町並みとして表参道通りにするなど、個性あるシンボルロードの実現ということに対して官民一体となった取り組みができないかとずっと提案してきた。これについていかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

古畑議員のご意見も一理あるのかなと思いますけれども、今現在、駅南の景観からいきますと、やはり閑静な住宅街という部分と、もう一つは中央大通り線を挟みまして、もう少し南を考えた場合には、この庁舎も含めてでありますけれども、いわゆる公共施設、文化施設も含めて市民会館等の施設も含みますけれども、いわゆる公共施設エリアという位置づけになっているというふうに思っております。こういった位置づけの中で、今後、駅南エリアにおいて今のご提案の土地区画整理事業なり、あるいはまた景観条例等を検討してはどうかというご意見だと思っておりますけれども、これまでの中では、特にそういった景観条例的なものは、検討はしてこなかったのが現状であります。先ほど申し上げました都市計画の見直しという今タイミングを迎えておりますけれども、こういった中で検討できるものがあるとするれば、そういった全体のまちづくりを見る中で考えていくという部分でありまして、特に駅南だけに限ったということではありませんけれども、全市的なまちづくりを考えたときにそういったものも考えられないかという部分をご意見としてお聞きしておきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私が言ってるのは、今ある大きなお金をかけて何かつくってくれ、建ててくれという考え方じゃない。今、空き家で、これから建っていこうとする建物や建築物に対して、ある程度の景観のグラウンドデザインというものを示して、自然にそういう町並みというのをつくっていきやどうかと。何

でそこにそんな面倒くさい手続が要するのか、このまま放っておくと洋風な家が建ったり、和風の家が建ったり、また軒を連ねるところがばらばらの景観になってしまう。空き地が連担するということは、そういったことを新たな町並みをつくれるというチャンスなんだということなんです。これ頭の中に入れておいてください。町並みをつくっていくということなんです。

それから、先ほど市長の話にもありましたけど、地元がやっぱりその気にならないと新たなまちづくりはできないということなんですけど、地元中央区でも若い世代を中心に駅南を活性化させたいという意識が出始めております。イルミネーションを飾りつける事業や駅南口イベントなど、こうした要望を受けて、私は、駅南口にぎわい創出事業、これらにも取り組んでいくべきじゃないか、新たな事業を創出して活性化を促すべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々といたしましては、非常に期待をする動きが今出てきておられるなということを感じ次第であります。確かに議員ご指摘のように、ある程度、乱開発になってしまうとまたこれを1つに統一した1つの町並みをつくるとなると非常に至難のわざであります。そういう中で、今、都市計画の中においては、位置づけが明確になっておるわけでありますので、その辺も含めて地域の皆様方や、どうあるべきかということをやっぱり考えていかなくちゃいけないんだらうと思っております。そういう中でのランドデザインは、やはりしっかりとっていかなくちゃいけないわけでありまして、今あそこが開発される時は、昭和30年代であるわけでありまして、当然、今の現代の中においては使い勝手の悪い町並みになつとるとするのは、重々承知の上でございますので、そういった皆様方の声を大きく上げていただくことが非常に取り組みやすくなるという捉え方でありますのでよろしく願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やっぱり若者を中心としたまちの活性化にどんどん頑張ってもらおうということで、やはり今そういう事業が全国的に変えてます。

1例を挙げますと、山形若者チャレンジ応援事業、若者が力を発揮できる環境づくりを進めるため、若者の主体的な取り組みの実現化の機会を提供し、若者の県づくりの参加を促進することを目的に若者が企画する地域課題の解決や地域の元気創出活動など多彩な取り組みについて企画案を募集して助成・補助を行うもの。定額で最高100万円まで、こういった事業がやはりあれば、じゃあ私もやってみよう、俺もやってみようというそういう団体が今ふえてきてますから、これをぜひ実施してほしい。

それから、やはり若者夢づくり応援事業、こういうのをお考えいただきたい。若者を中心とした音楽のイベントやスポーツイベント、これは青少年の育成だとか、こないだもロッキンという音楽

のコンサートをやりました。高校生たち大変喜んでくれたんですが、リニューアル記念の1カ年の企画だったんで、あれは来年からはないんですけど、やはりやりたいという要望があるんです。でもやりたいけどお金がない、お金がないからなかなか難しい、やはり寄附を集めないといけない、市民会館でやるとね。こういったことも含めて、若者チャレンジ応援事業や若者夢づくり応援事業、こういった新たな事業を取り入れるというお考えはございませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の中央区の空き家三十幾つだ、四十幾つという我々が調べても四十幾つあります。非常に蜂の巣のような状態にあるわけでありますので、そういう中で、例えば整備したときにどういうスペースが必要なのか、今ご指摘のようないろんなイベント、そしてまた、今ほど部長が答弁したように市の庁舎に近い、市民会館に近い、いろいろ連携プレーができるわけでありますので、イベントをどのように開催してできるような方向に持っていくのかということもいろいろ想定できるエリアであるわけでありますので、そういったものを地権者の皆様、やっぱり地元の皆様方が言う意見を地権者の皆様方が聞きやすいだろうと思うんです。行政主導で入っていくとなかなか公共事業のために何で個人の土地を出さないかというような、非常に違った観点から、また意見を言われる方も出てくるわけでありますので、やはりそのように一体となってやっていくんだ、地元の声を中心にやってできる事業なんだというような形になってくれば、また進捗ぐあいも違ってくるんだろうと思いますので、そういった情報は常に早目にいただく中で連携しながらそういう事業も、私はつくっていてもいいし、立ち上げてもいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは市長のお言葉として地元のほうには伝えてまいりたいというふうに思っております。商業施設が全くないんで、北口商店街のようなイベントを起こす力がないです。あくまでもコミュニティでやってることなんで、そういったことをやる気を見せれば新しい事業も予算もつくよという話もじゃあさせていただきたい。

それで、もう一点、今度違う観点で、先ほど言ったJR西日本の所有する社宅、これは市が一括で買い取って、今後とも活用できる方向をつくっていくということのお答えだったと思うんですけども、これについては私は、例えば商業施設が北にありますし、南寺町でも大変大きな商業ゾーンがありますから、商業施設というんじゃなくて、よく古川議員が提案しておりますが、例えば地域包括支援センター、近くには翠明苑ですとか、また病院だとかクリニックなんかたくさんあるわけですから、逆にああいうところを活用して、そういう地域包括支援センターや、また今検討されている糸魚川版CCRC、外からの移住者の受け入れとして新たな町並みをつくって、その中に来ていただいて活性化させていくというお考えはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

先ほどから都市計画の見直しという話が出ておりますけれども、これとあわせて、立地適正化計画という都市計画とほぼ並行して進める計画づくりをしております。これは、今、古畑議員から言われる例えばの話ですけれども、そういった民間施設の関連施設の誘導という部分も、この計画の中で検討を進めていきたいというふうに思っています。今はJRの土地が云々ということは別にしましても、あれだけのまとまった一団の土地というのは、市の中心部ではなかなか出てこない物件なんだろうというふうに思っていますので、買う、買わないももちろん今後の話なんでありますけれども、立地適正化計画の中で、そういった施設誘導という面も検討していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

さっきもちょっとお答えいただいたんですけど、計画交通系の役割というのをもう一回ちょっとお聞かせいただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

計画交通係は、主に都市計画の部門とバスとか鉄道、いわゆる公共交通の交通部門、これを一体的に推進するというのを所掌事務とする係であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

都市整備に関する部署の開設が必要だと訴えてきたことの1つのご回答なのかなと思う。けど、係でやれますか。初日には、伊藤議員も戦略的企画室の必要性訴えてましたし、これは当然その前まで行政改革でも総務文教委員会の中でも各議員さんも、やはり糸魚川はもう少し縦、横の連携を強化した戦略的な企画を考える部署が必要だという期待が高かった。こうした、先ほど私が提案したようなことも大きなシェアや、これからそれぞれの地区の特色を生かして連携を図れて、さらに民間一体となることができるような都市計画って私は必要だと思う。そのための部署として、私は非常に期待してるんですけども、これはそういう部署だというふうに理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

この係の背景には、先ほどからお言葉の中で出てきておりますが、都市計画の見直し、あるいは立地適正化計画、それから地域公共交通網形成計画、こういうものを平成28年度あるいは29年度にわたる部分もございますが、策定してまいります。こういう部門を一体的に取り扱いながら糸魚川のまちづくりを新しいまた交通体系の中で見直しをしていくという部門であります。係で十分かという議論であります。係とか室とかいろんな名称がございますが、新しい組織の体制の中では、係で両方を一体的に推進するということでの組織の充実を図って進めていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

わかりました。これはまた今後見ていきますし、私はできるならば金子部長もじきじきに企画引き連れてこういう計画、やっぱりやっていっていただきたいというふうに思っております。

南口の広場の下には、金子部長の実家があった場所でもありますから、ひとつ自分の生まれた場所ということも含めまして、糸魚川の新たな顔づくり、ストリートづくり、それからさっき五十嵐さんが言われたストーリーづくりということについて、ぜひ尽力していただきたいというふうに思います。

次に、人口減対策事業に行きますが、今回発表されました国勢調査の結果、総人口や高齢化率とはどういうふうになられたかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

井川総務課長補佐。〔総務課長補佐 井川賢一君登壇〕

総務課長補佐（井川賢一君）

国勢調査の速報値であります。人口が4万4,161人ということになっております。細かい統計については、28年の10月に発表予定でございますので、この時点で今、高齢化率というのは、出ておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

一番最新のデータをもとにというふうに思いましたけども、まだ国勢調査の細かい結果が出てないというならしょうがないです。これもずっと糸魚川市でも検討を重ねてきてる事業であって、出生率のみの改善の場合、それから社会動態のみの改善の場合、将来の予測値、それから目標数値等が示されておるんですけども、これは今回、改善されたかどうか、改善されたというふうに思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

国勢調査の結果からすると改善されたわけではないという。人口ビジョンにおける社人研の推計値は、4万5,191人ということで、それと比較するとマイナス1,030人という結果となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これも藤田課長やっぱり中心になってつくられた、まち・ひと・しごとの総合戦略、これ私、大変よくつくられたと思うんです。特に現状認識や分析についてはすばらしい。それを受けた施策につきましては、何だこれと言いたくなるのもいっぱいありますけど、全体がやっぱりすばらしいです。ここもやはり指摘されてますけど、自然動態では出生数の減員などで毎年約400人、社会動態では15歳から24歳までの転出が大きくて、毎年250人が減少、総じて毎年約650人が減少し続ける危機的状態である。これからいくと結論的には、毎年400人以上の子供が誕生して、250人の若者が定住しなければ人口減少に歯どめがかからない状況であるというふうに私思うんです。これらの状況を鑑みるに、来年度予算編成を見ても効果的かつ魅力的な施策が不足していると考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

新年度の予算でありますけれども、議員の皆様にも予算のポイントということで資料をお配りしておりますけれども、その後半のほうに総合戦略事業についての予算計上状況ということで計上しております。その中では、継続事業のほかU・Iターンの修学資金返済事業など18の新規事業、16の事業拡充という形にしております。

また、あした提案する一般会計補正（8号）でも加速化交付金事業として新規事業を提案する予定であります。それで十分かと言われればそうでない面もあるかと思っておりますけれども、予算化した事業をしっかりと実行することによって、目標に向けて頑張りたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

先ほど言われたとおり藤田課長おっしゃるとおり、当初懸念されている最悪の場合を予想した数

字よりもさらに上回った人口減少がずっと続いているということなんです。

ちょっと見方を変えまして、それではお聞きしますが、本年度の新規学卒者の、卒業者の管内の就職状況はどうなっているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

新規学校卒業予定者、高等学校の部分でございますけども、94人の求職に対しまして、今のところ93一応就職が内定しているということで、1名まだ未定という状況をハローワークのほうからお聞きしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

私、管内の就職者数というのを聞いてるんですが、糸魚川管内ね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

失礼いたしました。

管内は、今のところ93の就職予定のうち51が管内というふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

51名のうち、男女比はどうなってますか。

〔「議長、反問します」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

反問を許します。

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

申しわけありません。

最後のほうちょっと聞き取れなかったもんですから、もう一度お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

管内就職者の男女比について。

議長（倉又 稔君）

反問を終了します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

失礼いたしました。

管内51名のうち男性が38、女性が13の内訳であります。失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、大体、学年、高校生全部、大体400人ぐらいが卒業した中で、地元系魚川市に残る子が51人しかいないということなんですよ、高校を卒業した時点ですけどね。しかも男女比が38対13です。この現状についてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々の地域の仕事といたしましうか就職先が非常に偏っているなと思うわけでありまして、そのバランスがよくないというのは、これからも見受けられるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

結婚するにも出産するにも女性がいなけりや何もできませんよね。女性が定着できない理由というのは、どのようにお考えになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほどの中学生のアンケートの状況を見てもわかるように、やはり外への憧れ、やれ買い物にしる遊ぶ場所にしろ、それから家の跡を継ぐというような考え、そういう面からいって女性が市外への憧れ、そういうものが強い結果が出てるのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

出てるのかなとかわいく答えてもらいましたですけど、そういう甘い状態じゃないでしょう。いいですか、雇用の安定というもの、それから地域間の賃金格差、糸魚川ランク本当に低いんですよ。同じ仕事してても糸魚川のほうが仕事が安い。それから、男女の雇用機会均等法、それから今盛んに言われている同一労働、同一賃金、それから女性なんか特にそうですが、正規雇用の場面など著しく低いんですよ、押しなべて。これらについては、どのように是正していくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

管内の女性労働者の実態については、今、古畑議員の言われるとおりだと思っています。

12月のハローワークの話の中でも、今現状ですけれども、求人側も、いわゆる正規職員というよりは、いわゆるパートの求人が多くなっている傾向が続いているというふうに分析しております。行政サイドで対応できるものもあるかと思っておりますけれども、やはり地元産業の振興という部分で正規職員化に向けた取り組みをしていく必要があるのかなというふうに思っております。やはり若い女性も含めてでありますけれども、女性の皆さんが今の社会でありますので、希望される場合は、やはり仕事を求めているわけありますので、そういった労働環境が必要だということ。

もう一つは、有効求人倍率は、糸魚川市はこれまでもずっとそうですけれども、12月現在でも1.19倍でありますけれども、大きな変化というのは、県内の有効求人倍率が今まで糸魚川よりも低かったんですけれども、県の平均が糸魚川市を上回ってきました。ということは、全体的に県内を見た場合には、糸魚川の求人の状況が悪化しているという見方でもあります。そういう市を取り巻く状況もありますけれども、本来であれば男性・女性を問わず、しっかり正社員化として採用される、働く場所があるというのが望ましい姿だと思っておりますので、これについては、また十分意を配していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これもそういう現実味のない話しとってだめなんですよ。これもっと真剣にこっち側の総合戦略でここまで人口に対してしっかり詰め込んで分析してるのに、なぜ施策段階になると当たりさわりのない、どこの市町村でもやってるような仕事しかできないんですかね。いいですか、婚姻数、結婚する数を上げると言いますが、先ほども言いましたけど新規学卒者の男女比でさえ38対13、これ3対1でしょ。若い世代でさえ3対1、これで結婚できるんですか。それから出生数や出生率が上らない背景は何だと考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

1つは糸魚川市の人口における独身者の男女比が相当離れているという現状があり、なかなか結婚したくてもできないという現状があろうかと思えます。出生数がふえない理由といたしましては、当然のことながら、現在、結婚する数がやはり少ないということで、日本の場合は婚姻しないとなかなか子供ができない、つukれないという状況でございますので、その部分が反映してるのではないかというふうには分析しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

出生率も上がらんのは。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

失礼しました。

出生率も今と同じような婚姻数がふえてこないということが原因であろうというふうに思っております。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後2時03分 休憩

午後2時03分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それじゃあ合計特殊出生率が上らない理由は何だと思えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

合計特殊出生率につきましては、全国では約1.42ほどですけど、糸魚川市につきましては、平成25年が1.68、平成26年が1.73ということで合計特殊出生率自体は、全国平均よりは上回っております。

ただ、出生数としては、ふえてきておりませんで、この原因としては結婚される方は少ないんですけど、結婚される方の生まれるお子さんの数が多いというふうに分析しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

いいですか、重点施策として人口減対策を挙げてるんでしょ。具体的に実数を上げる方向で目的をしっかりと決めていきたいと市長が答えているんでしょ。何でこんな単純で基本的なところの答えるところでおたおたするんですか。いいですか、女性の出生数や育児に対する支援、出産・育児に対する支援、これは産休や育休に対する制度を確立していかないと出生率って上ってこないんですよ、合計特殊出生率上ってこないんです。じゃあこれに対して企業等に理解と協力というものは呼びかけているんですか。それについて、今どのような段階になってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

子育てしやすい環境の中でワークライフバランスの助成制度も取り組んできたところでありますけども、本来お使いいただきたい企業からの利用がなかなかなかったということで制度を中断した経過がございますけども、そういう部分におきましては、我々が事業計画をして、そのPRが、PR不足と、また、関係団体との連携が弱かったのかなというふうな反省に立っておりまして、その点につきましても、今後新たに強化してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

本気で糸魚川市の人口対策に取り組むには、女性をいかに多く、1人でも多くこの糸魚川に定着させるかを考えなくちゃなんのですよ。

それから、やっぱり企業の支援というものも糸魚川のために、企業が働く女性のための支援策というのを、私はしっかり打ち出してきてほしいと思うんですよ。最近では、今回も新年度予算にも上がってきましたけど、キッズランド、これは、ひまわり保育園の取り組み、こういうものに私、今、注目してるんですよ。事業所内保育の拡大版として、私は期待している。これは、各企業者、これは企業営、企業が経営する育児支援の施設なんだよね。行政が全部金出すんじゃなくて、企業が事業所内保育の延長として、企業が整備して、そこに子供を集めて多種多様な女性の育児支援をしていこうという、これはおもしろいんですよ。だから、これはもっと協力して、各企業にも私は参

加を呼びかけるべきではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

今ほどお話がありましたキッズランドさん、事業内保育ということで、従来は従業員さんのお子さんを事業所内で保育しておったものでございますが、4月からは地域との連携ということで、従業員さんのお子さんのほかに地域の未満児も預かっていただけるということで、市内では乳児・1歳児・2歳児の保育のニーズが非常に高くなっておりまして、市全体では定員より下回っておりますけれども、地域的に一部の地域では希望するところに預けられない、定員がいっぱいだという事態も出ておりますので、こういったところには非常に期待をしておりますし、また、希望する園に入れなかったところには、ぜひこういったところもありますよというご紹介を積極的にしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

人口対策、特に若者定着、女性対策につきましては、私もっと危機感持ってやってほしいと思うんです。若い世代に対して魅力あるまちづくりというのは、一体何でしょうか。

若い世代にとって最大の関心事は、恋愛なんです。目移りするほど恋愛対象がいることが、最大の魅力のあるまちなんです。親にとって最も大事なものは、地域の発展や糸魚川市の未来より、子供の幸せなんです。だから、子供が都会に出たいと言ったら反対しないのであります。夢をかなえて、若者や女性が輝くまちづくりを実現し、持続可能なまちづくりを推進するためには、何度も言いますが、女性の地位向上、就労条件の改善、子育て支援の拡充が不可欠であり、若者の市外流出を食い止めるには男女の出会い、安定した収入、遊び場が不可欠なんです。環境をどう改善できるか、現状の取り組みでは殊さら不十分であり、さらなる危機感を持って取り組むべきであろうと私は考えます。

市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員のお立場から申しますと、やはり非常にそういったところに力を入れるというご指摘だろうと思うわけですが、私も同じでございます。私もやはり、いかに女性が働く環境というのは、私は今、大切にしていきたいと思っておるわけですが、なかなか思うようにいってないところもご指摘のとおりあるわけですが。そういったところは、しっかり広げていきたい、女性が

本当に結婚しても、そして子供さんがいても働けるようにしていきたいとは、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

市長、私も3人の子供のうち2人地元に残ってもらいました、男の子と女の子。けど、2人とも恋人できないんですよ。かわいそうだと思いますよね、朝から晩まで働いて、本当に1日何十時間働いてるんだというぐらいよく働いてますけど、遊ぶ場も少なく本当にかわいそうだと思う。この現状が続けば、やはり若い者は残りませんよ。これはやはり何とか解決しましょう。よろしくお願いします。

次、地域活性化とコンパクトシティの推進なんですけど、これ東京23区と同等の広さ、森林率が80%を超えて、幾つもの深い谷に分断されて、しかも豪雪地帯である糸魚川市は、極めて行政効率の悪い土地柄だと思っております。加えて、人口偏重主義、人口が多いからいいという国や県の施策の展開によって、さらに中山間地の暮らしは厳しいものになっております。集落の存続可能性調査というもの、小さな拠点づくりというもの、これをどう進めていくのか。特にこのプランの中にも拳がってますが、小さな拠点づくりというのは、どう進めていくおつもりなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

地域の拠点づくりをどうやって進めていくかということでございますけれども、先ほど来お話ししておりますように、それぞれの地域づくりプラン、これを地域の皆さんとともに策定を進めているわけですが、そういう地域づくりプランの中で、地域でどういう住みよい地域をつくっていくか、あわせて公共施設の総合管理指針も先般、案をお示ししながらお話しさせていただいておりますが、そういう公共施設、あるいは生活のためのサービス施設、例えば買い物の利便だとか、あるいは金融の問題だとかというようなものも含めまして、交通体系とあわせてそういうまちづくりをどのように拠点性を持ったり、あるいは利便性を確保していくかというものを考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これもやはり前の人口ビジョンの中で非常に危機的な状態というのを示されてもらいましたよね。小滝、現在161人が2060年には6人、歌外波が323人が31人に、上早川は702人が149人に、小泊が476人が63人と、確実に減っていきますよ、というよりか集落としての

機能を果たさなくなりますよという厳しい数字がもう皆さんのほうでわかって出してるわけだ。現状でも厳しい中で、そんなこれから地域プランをつくってやってく、そりゃプランがなきゃ何もできないの私はわかりますけど、その辺につきましては、もう少しペースを上げて考えなければ地域が存続できなくなるんじゃないかと私は懸念しとるんですが、その辺いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

人口ビジョンの中の地域別については、今、古畑議員おっしゃるような形でお示しいたしております。

一方で、それぞれの地域において1%回帰論というのも今、地域に向かって説明をさせていただきながら地域づくりの取り組みを、また違う角度で1%人口が回帰してくれば、数的には地域で少ない人数のところは3人とか4人とかになるかもしれませんが、それでもそういうことを積み重ねることによって地域は存続していきますし、ひいては糸魚川市全体の地域の持続性にもつながっていくという取り組みを地域・市内全体でそういうものを展開していくことが必要だということで、今取り組みを進めているところであります。

議長（倉又 稔君）

補足の答弁ありますか。

失礼、続けます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは、たくさん手が先ほど挙がりましたからね、答弁側で。やる気のある証拠だというふうに思っております。これ危機的状態、もちろん市長、中山間地で活性化というのは、最初に出たときからの大きな命題ですから、私ごとき平場の人間が言うよりも十分にご理解されてるんだろうと思っておりますが、私のところには数々の悲鳴も聞こえてきておりますので、これは早急なる対応よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、最後、3番、公立高校、これは今後10年間で全国813の高校が廃校となります。新潟県でも90校を76校、14校以上を減らすと。お隣の朝日町では、先日行ってきましたけど、泊高校の廃校危機に住民を超える2万7,000人の署名を集めて存続を訴えてきた。高校を守ることは地域を守ることなんだ。私も全くそのとおりだと思います。

そこで、お聞きしますけれども、白嶺高校学級減による進学状況は、本年度どのように変化したのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

議員にお答えいたします。

市内の中学校の進路希望の調査、1月末の現在ですが、白嶺高校の希望者が市内では100名程度となっております。大きな上越市を希望している生徒が59名、1月末の現在の調査では、そのようとなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

そっちからいただいた数字なんでもっと正確に言ってくれませんか。そのほかに、その他とかあるでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

失礼いたしました。

その他、上越市以外の県内・県外ですが、19名であります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

いいですか、平成26年度、市外のほうへ出られた数は46人だった。それが本年度1月の状態でありますけれども、上越市内の高校へ59人、富山等の魚津等、そのほかの私立高校へ行かれた方が19人、合計78人が流出したわけだ。こうした子供たちが78人も外へ出ていけなくちゃいけない現状につきまして、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

これ全てが白嶺高校の学級減による増ということではないというふうには思っております。例えば高田高校等より国立大学への進学に有利なところを目指しているという方もいれば、小中一貫に通ってる子供もいる。いろんな状況の中で、ただ昨年よりも32人が市外のほうに多く出てしまった。これは当初の、県から白嶺高校1学級減が示されたときに、やはり市外からも100名程度が例年受験している。それに対して、市内の子供たちが50人ぐらい外へ出て受験しているという状況の中で、30人ぐらいは影響が出るのではないのでしょうかというところを県のほうにも申し上げてきたところですが、そのときの予測がほぼ当たった32人の増というふうな結果じゃないかとい

うふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

何その冷静な答弁は。24年が57人、25年が52人、平成26年が先ほど言ったように46人、そして平成27年が78人も外へ出てるんですよ。それが何で予想どおりになるんですか、おかしいじゃないですか。異例の事態なんだから、これに対して魅力ある学校、高校をつくらざるを得ないという論点にしていけないとおかしいでしょ。

もう時間がないんで先へ行きますけど、市内高校の統廃合、あるのかないのか、もう一回、年次計画については、どうなってるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

12月に出されました県教育委員会の構想によりますと、平成31年度から34年度までの間で、糸魚川市にありますエリア5ですが、普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置するとなっております。このエリア5では、総合学科の高校は、糸魚川白嶺高校と新井高校の2校でありますので、そのことを指しているかと思われま。平成32年ごろには、具体案を示すというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

この白嶺高校1つなくなるということは、私は大きい問題だと思う。

ただ、糸魚川高校、白嶺高校を対等にして合併して総合選択制というのは、ある種、逆には大きなメリットがあるのではないかなと私はそう思うんですよ、部活動だとかほかでいるんなことがあるけれど。

ただ、そうなった場合、校舎やグラウンド、体育館、それから専門課程に合わせた施設整備というのはどうなるんですか。今のまんま統合したことにして、あっちが糸魚川高校でこっちが白嶺高校の分校みたいな扱いになってくるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今ほどの白嶺高校が学級減となる、また県が将来構想を発表した、そういうことは、糸魚川にと

っても糸魚川市に住む、就職するそういう子供たちの減につながりかねないということで大変な危機感を抱いてるところであります。今ほどお話にありました、これから校舎がどうなるのか、また、学校施設どうなるのかということにつきましては、これからは再編計画を31年度から実施する段階において検討されるものとは思いますが、ただ、計画どおりに実施するかどうかは、今後の状況を見ながら、また地域の意見を聞いてということも県の教育委員会は言っておりますので、計画どおりに行かないような、糸魚川市としては行かないような動きを、これから懇談会を立ち上げていたしまして、県に意見を届けてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは、先ほど言ってるように高校守ることは、地域を守ることと私はイコール。何回も言うけれど、やはり地元高校に、特に白嶺高校に卒業された方が多く、この糸魚川の中へ就職してくれてるんです。減るのはこれからですから、今より現状はさらに悪くなるということなんですよ、市長。だから、魅力ある高校、学校づくりというのは、大変に、我々はよそごとじゃない、真剣に考えなくちゃいけないことなんです。

じゃあ魅力ある学科とは、どのように決められて、地元の意向というのは、どの程度反映されるんですか、その辺のお話というのは、担保されてるものですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど議員ご指摘の点につきましては、9月議会でも、12月議会か、にされたわけですが、私もやはりそのときに糸魚川高校と白嶺高校が合併するという、やはりその辺はなかったんですが、議員から発言があったときにそういう線もあるなど。それは今メリットを言いましたが、逆にデメリットも大きいわけでありまして。非常に今、糸魚川高校の魅力も出せない、白嶺高校の魅力も出せなかったら両方とも自滅するような、私は危機感を感じております。

ですから、私は今、高校の再編成の中で、やはり人口減少でなくて少子化から出てくる学校の再編成を考えたときに、ただ数だけでいいのか、やはり魅力のある高校は少ない学級数であっても残すべきと我々主張してまいりましたし、それが1つの例として海洋高校を例に挙げて取り組ませてもらいました。そういう1つの道筋はつくったわけでございますので、それに向けて我々は進めていかないかと思う。

今、白嶺高校の魅力は、どうあるべきか。もう一つは、やはり糸魚川高校の魅力をどうあるべきかもやらにゃいかんと思っております。糸魚川高校だけは残るなんていう確たるものはないわけでありまして、その辺をただ今白嶺高校が少し注目を浴びてますが、私は白嶺高校だけではないと思っております。その辺もやはりしっかり自覚しながら学校側もやっぱりその辺を、危機意識を持

ってもらわなければだめだと思っておりますので、その辺を連携しながら進めていきたい、そして我々がどう支援できるか、また高校側はどのような魅力をつくっていくのかというのを早急につくり上げていきたい、またつくり上げなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

全く一緒です。何か言い返すものもないんですけど、白嶺高校を守りたかった。だから3学級になることに対しては、あれだけ私は反対したんです。3学級じゃ、はっきり言って、1学年3学級じゃ学校としての体をなさんでしょ。

したがって、数が減っていくわけだから総合選択制というものに移らざるを得ないというふうに県はしたいんだろうと私は思う。最初に申し上げたように、じゃあ魅力ある学校とは何か、学力水準が高くて国立や有名私立大学へ入学が可能であること。要するに学力レベルが高いということ。それから、文化・スポーツ、これが盛んで、優秀な指導者がいること、そして専門知識や資格が習得することが可能で就職が有利になること。そして、それに見合った校舎、グラウンドや体育館、プールなどの施設整備、それから専門的なものを学ぶだけの専門的な器具や道具、そういうものがそろふこと。

市長、どうせ県が1つになれと言うんなら、これらを全部達成できるような魅力ある学校づくりやりましょうよ。特進クラスがあって、そこにはちゃんと優秀なところがある。クラスにここは全部、総合学科だけどこへ行けば間違いなく国立でも有名私立でも狙えるよ。子供の数がこれでふえたから甲子園行こうが何しようが糸魚川から全国大会行ってくれ。やっぱりそういうふうな、今度は地域全部が挙げて応援できるような高校、魅力ある高校づくり。それで、31年からなんですよ。ということは、それまでにある程度の考え方や地域の熱を醸し出していかなくちゃいかんのですよ。

市長、全く意見一緒ですから、要は、あとは市長が陣頭指揮をとってもらうしかない。南魚沼や今回、総合学科の上越総合技術高等学校だとか、それから高田のメディカルだとか、あれはやはり地元からの強い要望だとか、ああいうの何年もかけて新しい学科ができてるんですよ。だから、あしたからやってもらわにや間に合わないということなんです。ちょっとハッパかける形になりましたけど、市長、最後に意気込み、お考えお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全く同じ考えなんですけど、私はやはり今いろんな講師や整備と言いましたが、私はまずは、自分たちはどういう学校をつくりたいんだというものが先だろうと思っております。それに対して我々はどういう応援ができるんだという形に入っていくないと、我々が全部お膳立てしてどうぞという形は、なかなか魅力を感じないんじゃないかなと思うわけでありますので、その辺をしっかりとめてい

く、我々、海洋高校でやってきました。要するに市が精いっぱいやれるものは、どうなんだというものを精いっぱいやってきました。それによって生徒も、また先生もそれに向かって一緒になって動いていったわけでございますので、やはりまずは学校と、そして生徒がどういうものに魅力を感じているのか、糸魚川で学ぶとしたら何を学びたいのか、そういうものをしっかりとある程度、方向性を詳しく見させてもらって、じゃあ行政は、じゃあどれを応援できるのかという形に持っていくのが、私は一番いいのではないかなと、我々も当然でき得る知識、我々の持ち得るテクニック等は、当然提供もさせてもらう中で判断してもらっても結構だと思ってるわけでございますので、そういう形で私は、やはりこの糸魚川には3つの高校が必要と考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これで終わりますけれども、今回は一連して魅力ある、やっぱりまちづくり、魅力ある人材づくり、そしてやっぱり必要不可欠である夢づくり、最後は高校という具体的なところで話は出ましたけど、往々にして、やはり市長、もう少し行政全体熱を込めて、最後の市長の答弁よかったですよ。やはりそういう市長の熱が伝わって、全員が新しいまちづくり、糸魚川の防衛線のために頑張ろうという、そういう意気込みを私はもっと示していただきたいというふうに思います。

これで終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を2時40分といたします。

午後2時30分 休憩

午後2時40分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、産業振興策について市独自の経済対策、新幹線騒音対策、並行在来線（えちごトキめき鉄道）等の利便性向上について、米田市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

総務省が2月26日、公表した国勢調査の速報値によりますと2015年10月1日現在の日本

の総人口は、約1億2,700万人、前回調査より約95万人減となっているとのことであります。1920年の調査開始以来、初めての減とのことであります。

人口が減ったのは39道府県、増加は8都県で、東京一極集中が続いております。国の政策の結果とはいえ地方自治体も独自の努力が必要と考えますので質問いたします。

1、産業振興策について、第2次総合計画策定に関する市民アンケート、一般向けの結果で、働く場に恵まれているかを問う項目では、余り思わない、そう思わないが前回76%、今回71%、5%減っているとはいえ7割が恵まれているとは思えないと回答しております。それらも踏まえて伺います。

#### 1、産業振興策について。

- (1) 糸魚川市の産業構造について、どのように認識しているか。
- (2) 糸魚川市の産業資源の特徴について、どのように捉えているか。
- (3) 当市の産業発展の方向をどのように考えているか。
- (4) 中小企業振興条例を制定し、起業、中小企業振興の強化を図るべきではないか。また、1次産業等も含めた幅広い起業支援の強化を図るべきではないか。
- (5) 糸魚川高等職業訓練校とハローワークとの連携はどのようになっているか。求人に合致した求職者訓練が行われているか。
- (6) 地域振興財団、農業振興公社等、行政とは別の地域振興、産業振興の組織、団体をつくることにより、地域産業の振興に弾力的に取り組めるようになると思うが、どうか。

#### 2、市独自の経済対策について。

- (1) 地域経済の現況をどのように捉えているか。
- (2) 市独自の経済対策について、どのような考え方で取り組んでいるか。
- (3) 雇用、仕事づくり等の直接的効果を求めるものと、誘客面での間接的效果を期待するもの等あると思うが、波及効果も含めどのように考え取り組んでいるか。
- (4) 遺跡発掘調査のような、直接的雇用の取組も必要ではないか。
- (5) 商店等のリフォーム助成を、仕事づくりと誘客効果を高める面も含めて検討したらどうか。

#### 3、新幹線騒音対策について。

- (1) 北陸新幹線の騒音、振動被害はいつ頃までに解決される見通しか。
- (2) 騒音、振動の解決策について、関係住民の方たちとの話し合いはどのようになっているか。
- (3) 騒音、振動を解決するには、根本的にはトンネル内の空気圧を下げるしかないのではないかと。車両をより流線形にしてスピードを落とすか、トンネルの途中に空気を抜く穴を開け風圧を下げるしか方法はないと思うがどうか。
- (4) それができないのであれば、被害の大きい住民の方々には家屋移転等を含めた交渉をして了解を得られるような努力をするしかないのではないかと。緩衝口を塞ぐ工事、明かり区間の吸音板の設置はどうなったか。JRの対応はどうか。

#### 4、並行在来線（えちごトキめき鉄道）等の利便性向上について。

- (1) ダイヤ改正も含め、えちごトキめき鉄道の利便性の向上を図る取組についてはどのようになっているか。
- (2) 新駅設置についてはどうか。

(3) JRの旧駐車場用地の所有はどうなっているか。新幹線と大系線、日本海ひすいラインにおける利用者の駐車場無料サービスの考え方についてお聞きしたい。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目から3点目につきましては、製造業と建設業の就業人口が4割弱を占め、公共事業や大手企業の発注に依存する中小企業が多いものと認識いたしております。

また、市内に豊富に存在する石灰石を原料とした化学工業や窯業を中心とする工業のほか、高低差4,000メートルの地形の中で営む農業・水産業を基幹産業と捉えております。これら既存企業の技術革新や市場開拓などととも新たな分野へのチャレンジや6次産業化、農商工連携による新たな事業展開も必要と考えております。

4点目につきましては、条例の制定は考えておりませんが、引き続き第1次産業を含め関係団体と連携しながら市として創業支援や中小企業の振興に努めてまいります。

5点目につきましては、これまでも市、職業訓練校、ハローワークが連携して取り組んでいるところであり、今後とも求人に対応した職業訓練が行われるよう連携を図ってまいります。

6点目につきましては、地域産業の振興に一定の効果が期待できる一方、産学官金の連携強化が不可欠でありますので、さらなる調査研究が必要であると考えております。

2番目の1点目につきましては、糸魚川経済団体連絡協議会の昨年、前期の景況アンケート調査では、景況感、売上高、営業利益とも全体としてやや悪化傾向を示しております。後期の景況アンケートの結果については、まだ公表されてございません。

2点目につきましては、暖冬少雪に伴う除雪費の減少を市民に還元するなど地域経済に好循環を生み出すことが必要であると考えております。

3点目と4点目につきましては、公共工事の発注などによる直接的効果と、プレミアム商品券やリフォーム補助金など市内の購買促進による間接的効果を期待いたしております。

5点目につきましては、今回のリフォーム補助金では、商店は対象としておりませんが、新年度では、地元産材を利用する飲食店への助成を検討いたしております。

3番目の1点目につきましては、早期の解決に向けて、鉄道・運輸機構において対応を行っているところであります。

2点目につきましては、地元自治体と調整を行っており、市も住民からの苦情等の相談を受けて対応いたしております。

3点目につきましては、鉄道・運輸機構とJRで音源対策を検討し、実施する予定であります。

4点目につきましては、まずは音源対策等騒音防止対策の実施を優先するものとしたしております。

4点目の1点目につきましては、ダイヤ改正において新幹線との接続の向上に努めております。

2点目につきましては、県、市、えちごトキめき鉄道と連携し、新年度では概略設計を進めてま

いります。

3点目のJRの旧駐車場用地につきましては、えちごトキめき鉄道の所有地となっております。新幹線については、南北駐車場において96時間まで無料サービスを行っておりますが、大系線と日本海ひすいラインにつきましては、JR及びえちごトキめき鉄道と協議をしまいたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

合併した2005年、平成17年の国勢調査と昨年行われた2015年の調査で、糸魚川市の人口を比較しますと、この10年間で4万9,844人から4万4,161人となり、5,683人減、11.4%の減で、毎年568人減ってきたこととなります。2015年の就業者数はまだ出ておりませんので、2005年と2010年、平成22年の国勢調査で就業者数を比較しますと2010年、平成22年の1次、2次、3次産業の就業者の割合は、6.37%、37.57%、55.95%となっており、前回2005年の調査に比べ、全体では4.3%の減ではありますが、1次、2次、3次産業の就業者数の減少率は、1次30.2%、2次5.7%、3次3.4%となっております。どのように捉えておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

特に、1次産業の部分でいいますと、私は3つの部分で捉えられるんだろうと思っております。1つは人の面の担い手、2つ目は農業にしても水産業にしても林業にしてもそうなんですけども、基盤というところがあるかと思えます。3つ目はそれぞれ共通するのが価格、それから所得につながる部分だろうと思っております。この3つが1次産業で共通の問題でないかなというふうに捉えております。今ここに来まして6次産業化、農商工連携、それぞれ1次産業、2次産業、3次産業と連携して取り組める事業がありますし、もう既に取り組んでいる部分もございますので、そういうところをしっかりと支援をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

就業者数の構成比を業種別で見ますと、2010年の数字ですが、製造業20.81%、建設業16.31%、卸売り・小売業14.09%、医療・福祉10.15%、サービス業5.24%、運輸・郵便業5.23%、宿泊業・飲食サービス業5.17%、農業5.0%などとなっております。ふえてきたのは、医療・福祉、減りが大きいのは農業となっております。今後の推移をどのように

考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

人口減少とあわせまして、その動きはまだ続くんじゃないかなと思っておりますけども、特に医療・介護の面につきましては、高齢化してきておりますので、その部分の就業者数はふえるものと思っております。1次産業のところにつきましては、所得の向上にあわせて、特に1次産業は生産基盤、それから生産の効率性等から人がふえなくても何とか就業していかなくてはいけないというところもございますので、減りながらも何とか1次産業を維持していけるんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

「統計いといがわ」では、糸魚川市の面積746平方キロメートル、海岸線が51キロ、一番高い山が小蓮華山で2,766メートル、このほか2,000メートル以上の山が9つ、1,000メートル以上2,000メートル未満の山が12となっております。平成23年9月の国土利用計画では、森林86%、農用地3.6%、宅地1.5%等であります。耕作されない農地がふえ、害獣もふえております。第2次総合計画に関するアンケート調査結果概要では、人口減少対策では、雇用創出が433件と突出しております、いろんな意見がですね。雇用をつくり出すために何を資源と考え取り組むのか、幅はあると思いますけれどもどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

既存企業の拡充、それから新たな分野への展開、それから、新たに起業・創業される部分への支援、それから1次産業、2次産業、3次産業の連携によることの新たな創業・起業というものが考えられますので、そういうところを見据えながら対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市の木はブナでありまして、市の花はササユリ、市の鳥カワセミ、市の石ヒスイに示されますように自然環境に恵まれていること、糸魚川静岡構造線を境に東西の地質の違い、植物の多さ、東西文化の交流地点等自然を生かすこともあると思います。それらの活用も含めて、既存企業の振興、起業の取り組みの強化は非常に大事だと思います。今ほど連携ということでは言われましたけれども、どのような形で進めていかれようとしているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員言われますように糸魚川の地域特性から生み出されます地域資源、石灰石も含めて地域資源、農林水産物、漁業、全てやはり糸魚川の地形から生み出される非常に魅力的な地域資源だというふうに思っております。

また、姫川港を中心として工業、窯業が盛んになってきてます。

また、姫川港は、リサイクルポートとしての機能も持ち合わせておりますので、それらを総合的に捉えて対応していく必要があるかと思っておりますけども、特に1次産業のところの農業、水産業の資源といいますのは、非常に魅力があります。今、なりわいネットワークを通じて首都圏の居酒屋さんにも使っていただいておりますので、そういう魅力に関係団体、関係企業としっかりとつなぎながら販路の拡大につなげていきたいと思っておりますし、特に林業につきましては、市内の面積の約8割以上を森林が占有しておりますので、森林組合が主体となり認定事業体としっかりと手を組んで、これからの経営計画に沿った施策が進められるように支援してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

交流人口の拡大も必要であります、それだけで雇用の拡大に結びつくわけではないように思います。当市の産業発展の方向を考えながら雇用の拡大を実現するための総合的な仕組みが必要と思いますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地域資源を、またジオパークを核として交流人口の拡大、その交流人口の拡大から発生してまいります事業、それからそこで発生する企業、そういうことからの雇用の増を図っていくべきというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

中小企業支援策、今言われたこともそうでありますし、中小企業支援策や起業支援の施策いろいろと行われてます。それらを継続的に粘り強く行っていくためにも条例化して、既存の中小企業の振興、新しく事業を起こそうという方たちを支援する安定した仕組みづくりというものが不可欠ではないかというふうに思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

国におきましては、小規模企業振興基本法というものが制定されまして、今、議員言われますような振興条例というものの位置づけもあるわけでありまして、1回目の市長答弁でもお答えしましたように条例の制定は考えておりませんが、今まで以上に関係機関、関係団体との連携を密にしていきたいと思いますというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

調査研究をしっかりとやってみたいというふうな答弁だったと思いますが、条例化のよいところは、中小企業振興策の骨組みがしっかりして、市長がどなたになっても安定した取り組みができることではないかというふうに思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

方向性につきましては、今、総合計画の策定、基本計画の策定があるわけでありまして、その中でしっかりと位置づけてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

訓練校等の関係であります、技術の進歩により、働く人たちに求められる仕事の内容にも変化をもたらします。時代に合った職業訓練が必要と思いますが、求人にあった求職者訓練が行われているということであるのか伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

やはり不足している技術者もいるというふうに認識しております。それから、経済界、産業界で、またどのような技術が必要になっているのか、また、その技術者の育成について、どのような課題・問題があるのかということにつきましても関係団体、特にハローワークも含めてしっかりと情報共有する中で、旧の今井小学校で新たに職業訓練校が運営を開始したわけでありまして、その中で新たな事業として取り組めるように進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現在の糸魚川高等職業訓練校を運営しているそういう団体がありますよね。そういう団体の制約があっているんな取り組みが柔軟にできない、そういうことはないんだと、現在のままだも十分いろんな時代の要請に応えた技能訓練ができるんだと、そういうことでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

技能訓練を養成するために必要なハード、それから設備等にも限界があるかと思います。

それから、ソフト的なものについても取り組めるもの、取り組めないものあるかと思いますが、糸魚川の職業訓練校でできるだけ幅広く取り組んでいただけるように支援してまいりますけども、取り組めないものにつきましては、上越との連携もしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現在の訓練校を運営している団体でとてもできないというものがあれば、それに併設するような形で市独自に機能を加えるなり、そういうふうなことも考えられるんでないかなあと。それによって、この地域のいろんな新しい時代に合うような職を求める人たちの技能訓練ということも、そんなに大勢そこに人を張りつけなくても、何人が張りつけることによって可能になってくるんでないかというふうなことも考えるわけでありまして。ぜひ時代に合ったそういう技能訓練できるように取り組みを強化していただきたいと思います。

市とは別の組織・団体をつくって取り組むという点であります。ご承知のように飯田市では、近隣の市町村や各種団体等で作った株式会社南信州観光公社と市の担当部署の連携と分担でさまざまな取り組みを行っているとのことでありまして。会社では、振興公社、観光公社ですね、この南信州観光公社では、体験ツアーでキャンプ、乗馬、そば打ち、ジャムづくり、田植え、リンゴ狩り、草木染め、陶芸、ウォーキング、自然観察、また体験旅行、南信州体験こども村等を行って、援農事業のワーキングホリデー、人材育成の南信州あぐり大学院等を市の担当部署で行っているとのことでありまして。これは発展してきた組織・団体だと思っておりますけれども、このように行政とは別の組織・団体をつくることによって、地域産業の振興に弾力的かつスムーズに取り組めるようになるのではないかと思います。

内容については、ソフト事業、例えばこれもほかの市や、あるいは団体で取り組んでいますけども小学生・中学生・高校生を対象に地元の食材を使った料理コンテストを継続的に行うことで食育に役立つとともに、柔軟な発想が産業振興につながる、そういう可能性も出てくるのではないかと思います。一般やプロを対象にしたものを行えば、地域の資源活用で大きくまた生きてくるのでは

ないかと思えます。そのほかさまざまなソフト事業も含めての取り組みができるのではないかと思います。海洋高校の取り組みの例もあります。どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今挙げた項目につきましては、糸魚川の中でもいろいろ取り組んでおる事業も結構多くあるわけございまして、その辺を1つの組織として運営できないかというようなご指摘だろうと思うわけでありまして。

それは、やはり立地都市の環境にもあるんだろうと思っております。当糸魚川市は、なかなか近隣に連携をとる、そういった一体となってるものはなかなか見出せない部分でございますが、近年、北アルプス日本海広域観光連携会議というものの中で、今取り組んでいるものもございまして。そのように1つの中で枠ではなかなか捉えられないものはあるわけでありまして、その事業ごとに取り組んでいるのが実情でございまして、また研究する中において新たな1つの組織として取り組めるようなものがあれば、私は必ずしも行政だけで進めなくてもいいと思ってるわけございまして、その辺はやはり柔軟に対応していきたいわけございまして、しかし、現在非常にまだまだ地域の皆様方と連携をとって一体となって行政も加わりながらやっていくのが一番理想的なことではなかろうかなと思ってる次第でございまして、現状を考えながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

人口減少等で市のほうも人的、マンパワーが市のものでありますので、そういう中で商工農林水産課がその分野を全て把握して、全部を回していくというのはなかなか、今後、この先大変なんではないかなというふうに思うんです。一番合理的に事業なり、その産業の振興を図るには、どういう形が一番いいかというのを考えていく必要があるんでないかということでは言わせてもらいました。

そのほか耕作放棄地を活用した取り組みができる仕組みを考えることも可能ではないかと思えます。農家以外にも取り組めるところも、自治体ももちろんそうですが、そのほかでもあると思えます。柔軟な発想で取り組むことが地域産業の振興にも結びついてくると思いますがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

新保議員のご提案の南信州の取り組み、私も何度か足を運んだこともあります。原点は、やはり地域づくりということでありまして。それがいろんな形で法人化されたり、あるいはまた、関係する団体として残ってるわけですけども、非常に昔からそういったグリーンツーリズムももちろんです

けれども、ワーキングホリデーみたいな国の制度を積極的に受け入れて、地域の活性化を図るところが南信州の特徴的な取り組みなんだろうなというふうに思っていますし、歴史も随分ありまして、もう何十年という歴史を重ねて現在に至っているところもお聞かせいただいたことがあります。いずれにしても、こういった取り組みは、行政とは別にということでもありますので、やはり行政も一緒になってそういった地域の取り組みを支援していくという視点については、現在も同じ取り組みをしてるわけですが、そういった住民から湧き上がる地域活動、地域づくりの盛り上がり行政として支援していくというところは、引き続きまた行っていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

この糸魚川市の地域にもいろんな有効に活用できる資源というものがあるんでないかと思うんです。それらをいかに活用していくかという、そういう仕組みづくりというものをぜひ考えていただきたいと思います。

市独自の経済対策について伺います。

先ほどもお話ありましたが、商工いといがわ2月号を見ますと求人数が下がって、求職数が上っております。求人倍率も下がっております。一般家庭、営業、その他のガス・水道・電力使用量、一般住宅建築届出も減っております。状況を見ると悪くなっているように思われますが、どのように捉えておられるか、いま一度お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

確かに雇用面では、厳しい状況もうかがわれます。1つ例を挙げますと、失業給付金でございますけれども、昨年12月現在の失業給付金の資格決定を受けた人が32人、それから、給付金の受給を受けとる実人員が161人ということで、この161という数字は、同年同月に比べますと16人ふえているという状況でございますので、議員言われますように厳しい労働環境・雇用環境があるというふうには認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市の景気対策では、仕事づくりで公共事業の小規模修繕等住宅リフォーム補助、消費刺激策でプレミアム商品券補助等を行われておりますが、市の直接的雇用、それと仕事づくりと交流人口の拡大や誘客効果を高める効果も期待される商店版リフォームも検討したらどうかと、商店街等の活性化にもつながると思います。高崎市のまちなか商店リニューアル助成事業補助金の対象業種は、先ほど言われたものより幅広いですが、小売り、宿泊、飲食サービス、生活関連サービス業等とのこ

とでありました。この点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

今回の市の単独の景気対策は、新保議員もご承知のとりの背景がありまして、実行するものがあります。ご提案の商店等へのリフォームも確かに仕事づくりには、一定の効果は見込めるわけがありますけども、今回の限られた財源の中で市単独の景気対策をより広く市民に、もちろん商店を営む方であってもいいわけですが、住宅に供する部分につきましては、全ての市民を対象に今回行っていこうという取り組みであります。もちろんプレミアム商品券についても、ぜひ大勢の方から限られた部分ではありますけれども、大いにご利用いただいて消費喚起に少しでも貢献できたらという思いがあって今回実施するものでありまして、今回の経済波及効果とすれば、今回の1億1,000万の原資が6億を超える経済効果が出るのではというふうに、期待値でありますけれども思っているところでありますので、今回は、あえて商店等へのリフォームにつきましては、今回の政策の中には盛り込んでいないということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

私は直接的な交流人口の拡大ということには結びつかないかもしれませんが、お客さんが市外からいろいろと来られる。そのときに、例えば新幹線でおいて、糸魚川の駅前を通過して非常にきれいだというふう感じて、じゃあ町なかを少し回ってみようか、あるいはジオサイトへ行って回ってみようかというふうなときに、その誘客に直接的な効果なくても商店等のリニューアル助成事業を行うことによって、そういうお客さんに対する糸魚川市のイメージなり間接的な効果があるんでないかと。それと仕事づくりと両面ですよ、もうちょっと幅広い。そういう点で商店リニューアル助成ということも考えてもいいんでないかというふうに思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

市長、1回目の答弁で申し上げました新年度では、地元産材を利用する飲食店への助成を検討するということですが、これは地元の杉を住宅に使っていただく場合のふるさとの木の家づくりの助成制度を各商店にまで、飲食店にまで拡大しようと、今検討してるものでございます。そうすることで、今、議員がお話しのように交流人口で糸魚川に訪れていただいた方が糸魚川の杉で店内を改装されている部分も見えていただきながら糸魚川の杉のよさ、またあるいはおもてなしの部分も感じていただければなということで、糸魚川産材を利用する飲食店への助成について、新年度で検討をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひ大いにそれもやっていただいて、それをさらに拡大していくということで大いに取り組んでいただきたいと思います。

それから、直接的雇用の点であります。先ほども質問させていただきましたけれども、例えば直接的雇用、いろいろやられて、市でもやられておりますが、ジオサイト周辺を常にきれいにしておく。これは来てくれた方たちへの礼儀だと思っておりますけれども、このような市の施策と関連した直接的雇用、市が採用する、例えば半年なり、どれだけなり、そういうこともこの景気対策、経済対策の中で検討していてもいいんじゃないかということでもあります。今、求められていること、今、市が行っていることに対して、もう少し取り組まなければいけないという点での直接的雇用ということではありますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

かつては国の緊急雇用対策というようなことで、議員おっしゃる遺跡調査等も直接雇用でやったことがございます。今回の景気対策につきましては、今、提案申し上げておるような形のもので実施いたしております。おっしゃるような、例えばジオサイトにつながるアクセス道路の草刈り等々については、おいでになる皆さんの感触がよくなりますようにというようなことで、委託事業で予算の中に盛って実施いたしておるところでございます。そのような取り組みの中で、ジオサイトについてのおいでになる観光客の皆さんへのイメージアップという点についても十分配慮して対応しておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

こういう委託事業ということではなくて、直接雇用するという取り組みも必要ではないかと、厳しくなればなるほどそういうことも必要ではないかということでもありますので、ぜひ検討していただきたいと思っております。

新幹線騒音対策の関係であります。

3月14日に開業して、もうすぐ1年になろうとしております。新幹線鉄道騒音に係る環境基準では、もう十分ご承知のとおり住宅地70デシベル以下、商工業用地等75デシベル以下となっております。環境基準達成は、開業時直ちにならなっております。トンネル出口の緩衝口を塞ぐ工事は、今年度中に工事を完了したいと、この前の私の質問に対してこのような答弁でございました。明かり区間の吸音板の設置も行いたいということではありますが、どうなっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

緩衝口を閉じる工事については、梶屋敷地区においては今年度中に閉じる工事が終わる予定でございます。柱道のほうについては、若干ずれ込んで4月にずれ込むというような情報を得ておりません。申しわけございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

この緩衝口を塞いで吸音板を設置すれば解決できますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

その2つの工事で解決できるかと言われれば、それはここでできるというお答えはできませんけれども、まずその2つをやると。その後もできなければ、さまざまな対策をとっていくということでお聞きはしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

おおよそ被害状況を把握されているということでありましたが、市として、全体的に騒音・振動・日照被害等、どの地域にどういう被害が何件あるのかお聞かせ願いたいと思います。国の調査もあったことと思いますのでお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

まず能生地域においては、騒音については対象が60件程度、2次測定をやったうちの半数以上が70デシベル以上を超えておるといようなことでございます。

それから、あと糸魚川地域においては、梶屋敷地区において2次測定を終了しております。これも対象が22戸であります、それも半数以上は超過しているのではないかとということでございます。

あとは、糸魚川地区、それから青海地域については、2次測定は終了いたしておりますが、結果等については、まだ出ていないというような状況でございます。

それから、日陰補償については、能生地域では対象が6棟ということで、これについては補償は完了しております。それから、糸魚川地域においては、47棟ということで、これについても補償については完了いたしておると。青海地域においては、4棟ということで、これも補償については完了いたしております。

それから、農作物日陰補償については、能生地域、それから糸魚川地域、青海地域ともにございまして、これについては28年度に補償を完了したいというようなことでお聞きしております。

それから西能生地域の湯水について、4カ所ございましたが、これについても補償については終わっておるということでお聞きしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市のほうでしっかりと把握をして、きちんとこの問題が解決されるように取り組んでいただきたいと思います。

それで、その後、関係住民の方たちとの話し合い、報告をしたり、説明をしたり、その中で皆さんから出されてる意見もあったと思いますが、どういうふうな声が出されておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

お聞きしてる意見等は、まず第一に助成対象になる部屋が1人に1室ということで、ひとり住まいだと1部屋しか助成の対象にならないということがまずあります。それから、2次測定を行った後については、個々に通知結果をお知らせして、個々に交渉に入ってるということで、2次結果の測定について、全体的な住民説明会を実施してもらいたいという要望はいただいております。これについては、機構のほうにその旨をお伝えしてるところでございます。

それから、各戸の助成の補償といえますか説明で、コンサルタント会社が補償等の説明を行っているということで、基本的に機構の人間でないものですから要望等を行っても決定権がないということで、この辺がすごく不信感があるということでお聞きしておりますので、この旨もやはり機構のほうにその旨伝えて、責任を持って機構のほうで対応してもらいたいというふうに言ってるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

そういう間接的なやり方だといろいろまた問題が起こることがありますので、ぜひ今言われたように直接、機構なりJRなりが話を聞くという形で、そういうふうになるように引き続き頑張っ取り組んでいただきたいと思います。

新幹線の線路と住宅が近過ぎるのではないかというふうに思われるところがありますが、被害の大きい住民の方々には家屋移転等も含めた交渉が必要ではないかと私は感じたんですけども、こういう点の話は出ていないのかどうか、JRや鉄道建設運輸施設整備支援機構とはどのような話をしているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

確かにすごい近いうちがございます。それで、これについては、例えば移転だとかそういうものの対象にならないのかということで機構に問い合わせしております。機構では、やはり直接かかったものでないと移転の対象にならないということで回答を得ておるんですけども、やはりこの辺のところ当初からの問題ではなかったのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ずっと流れを見てますと、この機構のほうも何か補助なり助成のそういう決めがあって、これに沿って出してるんだよと。JRもそうですけども、自分たちが、この騒音・振動を出してる一番本人なんだという、そこが欠けてるんでないかと思うんです。その一番の責任を持たなければいけないところが人ごとのような話をしてるのでは困ると思うんです。ぜひ今、機構に問い合わせているということじゃなくて、あなた方が解決しなければならない問題でないですかというふうに市としてしっかりと物を言っていたきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

私も昨年の6月から長野のほうへ3回ほどまいりまして、抗議もしております。大変スピード感がないということで抗議をしておるんですけども、ただ、それにしましてもやはり鉄道・運輸機構は、全国的な新幹線騒音に対応するということで、基準とか規定とかそういうものが十分あります。そういったことで、例えばひとり暮らしの場合は1室しか、防音対策するのは1つの部屋ですと、でもそれはおかしいではないかということで、例えば茶の間と寝室、少なくとも2つ必要じゃないかということでやってきてるんですけども、なかなか今まで全国的にやってきた規定を変えるわけにはいかんということであります。そういったことで、私たちが抗議をしながら今何とか早く騒音対策するようにということでやってるところでございますので、もうしばらく時間を頂戴したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

糸魚川市としてもそういうふうに頑張っておられるということは、話を聞いてわかりますけども、ひとり住まいの方であっても1つの部屋に1日中いるわけじゃないですよ。夜になれば、何時に休まれるかわかりませんが、新幹線の走ってる時間帯の間にこの部屋にいたり、外に出たりいろいろするわけです。そういうことも無視して1部屋だけという、そういうことでは困るというふうに私も思いますし、ぜひそういう点ははっきり改善するように、ほかのところはどうあろうと糸魚川市は糸魚川市の市民の皆さんに責任を負うわけですから、そういう立場でやっていただきたいと思います。時間だけ経って、いつまでも解決しないということのないように、ぜひしていただきたいと思います。

えちごトキめき鉄道等の利便性向上の関係で伺います。

2月15日の朝日町議会との議員連絡協議会で、あいの風とやま鉄道株式会社、日吉副社長から、あいの風とやま鉄道の利用状況と今後の取り組みについてと題する講演を聞かせていただきました。改善計画についてお話しいただきましたけれども、えちごトキめき鉄道の改善計画、どうなっているか、これまでも改善してきてはいるけれども、まだ不十分ということいろいろ言われております。この点についてお聞かせ願いたいと思います。列車の増車、本数の増、朝時間帯の混雑緩和、利便性向上のための取り組み、どのように改善されるか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

利便性の向上ということで、朝・夕の通勤・通学列車の増車、それといろいろと、えちごトキめき鉄道に要望はしておりますし、何とかならないものかということで副市長も言っておりますけども、改善には至っていないというのが状況でございます。

また、この春からは、上越へ通う学生がまたふえるという見込みでございますので、その辺も数字的に示す中で、やはり増車等の要望をして、実現に向かって要望していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

利用者の方が運行時間帯全てで困っているというわけではないわけです。困ってる部分を改善してほしいと言ってるわけですよ、一番、朝なら朝の。何でそれが改善できないのか、何で改善できないというふうに言ってるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

予備車をそこのところに増結した場合に、不測の事態が起こった場合に全線で運行ができなくなるということで、その以降の運行も支障が来すということで予備車においては使わないで、やはり予備として置いときたいというのがえちごトキめき鉄道の言い分でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

いろんな改善するためにどういうふうにするかということで列車の数が決まってる、ここにディーゼルだけで直江津・糸魚川間というか泊までやるという、その中で考えなきゃならんという、そういうことなんだろうと思いますけども、工夫をして、どうしても予備車というものが置いとかなきゃならん、それは何かで、別の方法でこれを緊急の場合、対応するというふうなことできないんですか、これ。あるいは、その時間をもう少し工夫するとか、富山のあいの風とやま鉄道の場合、非常に工夫をしてやりましたよ。どういうふうにして運行計画の中でやりくりするかというのは、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

やはりえちごトキめき鉄道にもそういうやりくりだとか、どうしたらできるのかというようなものを前向きな検討をしていただきたいというふうに私自身も思っておりますし、そういうふうに関心かけていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

実現するようにやってください。

それから、高校統合の話もあります。新駅設置の話は、進め方を早める必要がある。ぜひこれも早くやっていただきたいと思えます。こちらのほうはどういうふうになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

市長も答弁しましたように28年度で概略設計等を計画し、その後、着々と進めていきたいというふうに思っております。

設置の可能性については、事業開始から5年というぐらいなスパンで今言われておりますけども、できるだけ早く設置ができるようにしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

県のほうで具体的な話が出る前に、これがある程度めどが立つようにぜひ取り組みを強化してやっていただきたいと思います。そういうふうにはできないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

新駅設置につきましては、県のほうと協力しまして着実に一步一步階段を上ってるという状況であります。そういったことで、もうしばらく時間を頂戴したいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

総合的に考えなきゃいけないと思うんですよね、こういう鉄道の場合もです。新しい駅をつくる、もちろん十分検討するというのも大事ですが、早くやっていただきたいと思います。

補助金の関係についてはどうなってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

新駅設置に関する国の補助金等については、平成28年度に交通網形成計画を立てて、国の補助対象に持っていきたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて一般質問を行います。

1、起業・創業支援について。

人口が減少し、以前のような経済の右肩上がりが見込めない現在、国は経済成長の発展に女性や若者の起業家が活躍できることが重要であり、その環境を整備しなければならないとし、地方では国の支援事業を受け、地域経済の活性化を担い、更に移住促進にも期待できるとして起業・創業の支援に力を入れる自治体が増えていますことから、糸魚川市の起業・創業支援について伺います。

(1) 昨年国から認定された「創業支援事業計画」の取組状況について。

(2) 空き家、空き店舗、空き公共施設の活用とそれらを利用したインキュベーション型などの「シェアオフィス」整備の検討について。

(3) 1次産業の新規就業状況と製造・加工及び販売の創業について。

2、北陸新幹線、高速道路、国道の騒音等環境問題について伺います。

(1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動の現在の対応状況について。

(2) 市内国道及び高速道路の騒音等環境問題の現状について。

3、北陸新幹線糸魚川駅とえちごトキめき鉄道の利用状況と今後の利用促進策について。

(1) 間もなく開業1年を迎える北陸新幹線の利用状況は、JR西日本によれば、開業から今年1月末までに乗客は前年のおよそ3倍に伸び、観光客の増加が大きな要因と報道にありました。

上越妙高駅 糸魚川駅間での乗車人員はおよそ836万人、1日平均26,000人だったそうで当初予想を上回り好調と聞きますが、糸魚川駅の利用と経済波及効果は薄いとの声が多く聞かれることから、市の認識と対応について伺います。

(2) 同じく開業1年を迎えるえちごトキめき鉄道について伺います。

ダイヤ改正による朝夕の混雑解消について。

リゾート列車、イベント列車、サイクルトレインの運行予定について。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、創業支援ネットワークによるワンストップ窓口を設立するとともに、2月27日に创业者の掘り起こしを目的に創業セミナーを開催いたしましたところであります。

2点目につきましては、起業家の育成や新しいビジネスを支援する方法の1つではあると思いますが、現時点では整備は考えておりません。

3点目につきましては、毎年数名の方が新たに1次産業に従事されております。

6次産業化につきましては、米の直接販売や米菓の製造販売、ワサビの加工販売などがあります。

2番目の1点目につきましては、鉄道・運輸機構においてトンネル出入口の音源対策と住宅の防音工事費の補償を進めております。

2点目につきましては、一般国道8号などで基準を超過してる箇所がありますので、国土交通省と東日本高速道路株式会社に対して基準を達成するよう要請を行っております。

3番目の1点目につきましては、観光入込客数は市内全域で増加いたしておりますが、特に糸魚川駅周辺で大きく増加いたしており、今後も2次交通の整備が重要と考えております。

2点目の1つ目につきましては、車両の増設を引き続き要望してまいります。

2つ目のリゾート列車につきましては、4月23日から土・日・祝日に運転される予定であり、イベント列車につきましては、ことしも春から運行する予定であります。

また、サイクルトレインにつきましては、3月14日から18日まで実証社会実験を行う予定であります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

まず、ビジネスチャレンジ支援事業についてお伺いしたいと思います。

全国的に事業所数が減少傾向でありまして、事業所が減っていくと人口減少につながり、地域の魅力、あるいは町の活性化が失われると言われております。糸魚川市でも同様で、平成24年の経済センサスがあるんですけども、先ほど新保議員いろいろと従業員数等産業別の率についてお話がありましたけれども、平成24年の経済センサスでは、市内の事業所数が2,825だったのが、平成24年の2月1日現在では、2,612で213の減、7.5%の減で、それに伴って従業者数も3,298人減、14.5%の減というふうになっております。

創業支援なんですけれども、これまで本市としては、ビジネスチャレンジ支援事業を行ってまいったわけなんですけれども、改めてその取り組み内容と利用実績についていかがだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

本市が行ってまいりましたビジネスチャレンジ支援事業の平成27年度の状況をご説明申し上げます。

開業に係ります設備経費を助成する中心市街地創業支援事業では、飲食店の開業が1件ございまして、補助金150万円を助成したところであります。

また、開業に必要な資金を借り入れた場合の利子につきまして、3年間助成します創業支援資金利子補給事業につきましては、美容業、飲食店などの開業で、新規申し込みが10件ございました。開業から3年間の利子を助成するわけありますので、継続分を合わせますと19件の助成をいたしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

このビジネスチャレンジ支援事業において、いろんなパターンがあるわけなんですけれども、主に市内在住者、今、実績をおっしゃったものと市外からの申し込みがあるかどうかと思うんですけれども、市外からの申し込みの状況というのはいかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

市内の創業資金利子補給制度をご利用していただいた方々の内訳をご説明しますけども、25年度以降、3人の方が利子補給制度を利用していただいております。これは当市に転入してから5年以内に創業した方々でございまして、いずれも女性でございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それで、昨年認定されました創業支援事業計画でありますけれども、これは国の支援業者を受けてのものでありますけれども、このビジネスチャレンジ支援事業との違いはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

創業支援事業計画につきましては、産業競争力強化法に基づきまして地域における創業を促進し、市町村が中心となって民間企業などと連携して、創業者に身近な場所に支援体制を整備するという取り組みでネットワークを開催させていただいたわけでありまして、先週の土曜日にも初めてのセミナーが開催されたわけでありまして、商工会議所、信用組合、日本政策金融公庫などとの連携体制をつくりましてワンストップの相談窓口を設けたわけでありまして、相談内容によって必要な支援を紹介し、創業後も事業の成功を見守っていくということが目的とされているわけでありまして、

これまでは、それぞれの機関で個別に創業をサポートしておりましたので、情報の共有という部分では、少し不足していたところを感じております。連携によってお互いの得意分野やノウハウを補完しながら、共有しながら地域全体としてサポートする体制ができたというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今ほど説明の中で、産業競争力強化法の話がありました。これは平成26年に、2014年に制定されたものかと思うんですけれども、特に開業率、廃業率の新陳代謝を促すことが目的だと。それをするための創業支援が大事だと。

日本の開業率というのは、非常に低くて欧米の半分程度で、まずはこの欧米並みに持っていきたいということだというふうに聞いております。日本の開業率は4.9%、平成26年ですけれども、廃業率が3.7%、その中でも新潟県の開業率は3.4%で全国42位。糸魚川市の開業率・廃業率は把握されていたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

これもハローワークの雇用保険主要指標の中からご説明申し上げますけれども、事業所の関係におきましては、12月末現在の事業所数では798、それから新規に事業所としてなった方が9でございます。廃止が19という27の状況であります。26年度では、事業所数が808、新規で17、廃止が20ということでございまして、24、25よりも若干廃止の数が減ってきているかなという状況が見てとられます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

27日に行われた創業セミナー、これがチラシでありますけれども、きょう午前中のお話にもありましたし、今、課長からもお話がありましたけれども、40の方が参加された。目的どおり、当初予想どおりというか、かなり関心の高さを伺えるんですけれども、このうち個別相談もあったかというふうに書いてあるんですが、個別相談された方は何人おられたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

当日は日本政策金融公庫のほうから、創業ってどういうことというふうな講演をいただきまして、その後、体験者がお二人、私はこうして開業しましたというふうな体験談をお聞かせいただきました。その後、今ご質問の個別相談につきましては、5の方が個別相談を受けていただきました。各関係機関で個々のケースに応じたきめ細かい支援を行い、その相談内容を連携機関で共有し、次の段階に必要な支援につなげて、創業の実現まで伴走していくことが必要だということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今回、第1回目、5の方が相談、相談された方はかなり確率が高く創業のほうに関心も高いんじゃないかと思うわけですけれども、総合戦略においては、KPIで平成31年までに創業数を48というふうに明記しておるわけです。これに向かったの取り組み、年間等はどのように設定さ

れておられるか、また進捗状況等はどうのようにやっていくのか考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

26年度に創業支援事業計画の連携機関でかかわってまいりました創業件数が19件でありました。

また、総合戦略のKPIの目標値も創業支援事業計画の目標値としておるところでございます。26年度の実績が19件でございますので、年間24件クラスを目標としながら取り組んでまいりたいというふうに考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

年間の数が非常に多くて意気込みはいいなと思うんですけども、この計算でいくとかなり創業数がふえていくんだなというふうに考えられるわけですけども、先ほどの話にあった平成31年での創業数48というのは、これは年間の数字なんでしょうか、それとも累計で48というふうに持っていくという数字なんでしょうか。いまいち数字の整合性というの、合わないんじゃないかなと思うんですけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

26年の実績件数が19で、それより5件ふえることを目標としながら、KPIの年間目標では、年間で48件を目指してネットワークで総力を挙げながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ頑張ってやっていただきたいと思うんですけども、創業の中でも時代の変化や状態によって、第2創業をされる、特に後継者などにそういった方が見受けられるんですけども、糸魚川での第2創業の状態というのは、いかがなものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

27日に開催されました創業セミナーにおきましても、体験談を発表いただきましたフェルエツ

グさんやブオーノさんなど市内でも第2創業の動きがありますので、市といたしましても商工団体やNICOなどとの制度を活用しながら第2創業の取り組みを支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

じゃあ今後ですけれども、この創業支援事業計画、今年度これからどのように活動を、さらに事業をしていくのか、事業がもし計画されていたら教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先週の土曜日の27日には、初めてのセミナーでありました体験談のお話を聞いて個別相談された方も非常によかったというふうなご感想をいただいております。

それから、今後は女性を中心としたセミナーも考えていく必要があるんでないかなということで、今後のセミナーの活動の中に新たなものを取り入れていきたいということで、ネットワークの活動を進化させていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今後、女性の起業について力を入れていくと、ぜひお願いしたいと思うんですけれども、今現状は、女性の起業状況というのはいかがなもんなんですか。

また、男性とまた特に違った課題等があるもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

実態といたしまして、平成26年度に市の補助制度を利用して就業された女性の方がお一人でございます。27年度の状況では3件で、特に業種では、飲食業、美容業で個人事業主が多い状況でございます。先ほど申し上げましたように、現在、女性に特化した支援を行っておりませんが、創業支援セミナーの中で女性を対象としたセミナーの開催も、今後検討していく必要があるのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、以前にも提案したことがありますワーク・イン・レジデンスですけれども、起業を志す若い世代や地方での転職、定年後、自分のそれまでの経験とか趣味、特技、技術を生かしての起業を目指す、別の仕事で第2の人生を送ろうとする団塊世代、こういった方々がいろいろと起業・創業を考えておられるということをよく話に聞くわけですけれども、こういった技術や資格、経験等を有している人などが、移住して起業・創業する取り組み、そういったまたサポート体制は、今後どのようにされていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ワーク・イン・レジデンスにつきましては、仕事がなければ仕事を持った人に移住してもらって、そこでサテライトオフィスという働き方をしてもらってもいいではないかという取り組みだというふうに思っております。

以前にも建設産業常任委員会の県外視察の徳島県神山町にも同行させていただいたところであります。ワーク・イン・レジデンスのそれに近い取り組みといたしまして、先ほどの一般質問の中でもご答弁申し上げましたけれども、昨年、田んぼオーナー制度をきっかけにしてIT関連の企業が市内の空き店舗で事業を開始いたしました。そこでの勤務者が3人でありまして、非常に事業が順調に伸びてきていますので、ITを活用した在宅勤務を検討するというお話もお聞きしております。地元雇用の促進のみならず首都圏からの移住・定住にも期待したいと思っておりますし、ただ、ワーク・イン・レジデンスに関するサポート体制というものは、まだまだ勉強する必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、お話がありましたようにワーク・イン・レジデンスの場合は、今こちらにあるいろんなものを活用して、また店舗あるいは事務所等を空き家・空き店舗そういったものを活用できる。そして、移住促進もやるということで非常に取り組んで力を入れていけば効果的なものではないかというふうに考えております。その空き家を活用して、あるいは空き店舗・空き公共施設ですけれども、今現在、先ほどの市長答弁では、今後のということですが、以前にインキュベーションについて課長の3つの案の中のうちの1つは、こういったことの勉強にも行かれたということを答弁されておりましたけれども、その辺の状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地方創生の総合戦略を検討する中におきまして、関係機関の皆さんとの意見交換、またあるいは地方創生の特別委員会の中での議員の皆さんのご意見等を受けまして、当課の主査以上の職員につ

きまして、先進地の視察をさせたわけであります。時代の流れとともにいろんな働き方、創業の仕方が出てきております。そういう部分を勉強させたわけでありますけれども、まだ具体的に行動に移しているわけではございませんけれども、視察研修をもう少し掘り下げて総合戦略の具体に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

空き家をビジネスに活用する案なんですけれども、実際に市内においてはそういう例、例えば古民家を宿泊施設にするとか、そういったことがあるんじゃないかと思うんですけれども、例はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

当市におきます空き家のビジネスへの活用例については、今現在、把握しておりませんが、IT企業の事業所開設の動きもありますことから情報収集と課題の把握に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

IT企業の事業所がこちらに進出してくるといってお話があるということなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

失礼いたしました。少し説明が不足しておりました。

昨年の田んぼオーナー制度からIT企業が市内の空き店舗に事業所を構えたということから、IT企業の事業化というところを説明させていただいたわけであります。説明が不足しておりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

空き家あるいは空き店舗もそうですけれども、そういった例は今のところ見当たらないということなんですが、こういったものに使える空き公共施設というものはあるものでしょうか。あるいはそういう調査というのをされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当課のほうで管理している普通財産という形になりますけれども、大きなものとしては、やはり統合した学校関係が大きなものとしてあります。活用した例としては、南西海小学校がありますし、今、今井小学校も職業訓練校等に活用しております。その他のものということになると、やはり耐震化等の問題がありますので、今後、活用できるものとしては、新年度に新たに出てくる上早川小学校とか、それから市振保育園、そういったものが今後どういうふうな形で活用できるかという面については、また町内や地元の方のご意見を参考にすることで進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

以前、能生町時代に能生水産高等学校の分校を利用して移住してこられた方が、そこで事業を始めて、さらに定住されている。あるいは彫刻家の方が入られて、また住まれているというふうに、こういう空き施設をできれば安価な形で提供して、そういうふうに結びつけていくというのは、非常に効果があるのではないかなと。

また、耐震問題もあろうかと思うんですけれども、ぜひネット環境等あるいはオフィス関係等の整備すればそういうのを利用したいというニーズがあるんじゃないかなと思うんですけれども、そういうニーズに対しての調査というのはされておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

公共施設の普通財産という点では、過去にはホームページ等に載せて活用しませんかというのは、上げたことはありますけれども、申し込みとしてはなかったという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

また単に、空き施設があるからという、これからの時代は、ある程度の施設整備をして、先ほどインキュベーションの話をしましたけれども、コワーキング事業なんかも最初、話をしました産業競争力強化法、ああいった中でも進めている事業であります。そういうふうにコワーキング事業を初めレンタルオフィス、そういうふうな形でこちらがある程度、最低限の共有するものというものを整備して、レンタルあるいは安価に貸し出すという方法なんですけれども、そういうことに対する考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農林水産業の体験就業に対する滞在費の助成等は、27年度から予算化をしてきておりますけれども、今現在、利用の実績に至っておりません。そのほかに移住・定住相談等で糸魚川市に興味をお持ちの方、これらの方々のご意見・ご要望もお聞きする中で、今、議員ご提案のような整備について検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

私もちょっと言葉が足らなかったんかもしれませんが、コワーキング事業やなんかは、1つの施設に1人の事業家が入るんじゃなくて、複数人間が入って共有していくという考えで、非常に負担が少ない。まず、仕事を始めていくのに入りやすい、そういったメリットがあるということで、今かなり先駆的な取り組みとして進められていますし、取り組んで実際にいます。そういったことで、1人の人が1つのそういったんじゃないって、負担が少ないので非常にこれからもニーズがあるんじゃないかなと思うんだけど、ぜひその辺の検討というものもまた進めてもらいたいと思います。

空き公共施設と別ですけれども、あいてる事業所の把握というものは、どんな状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

空き事業所・空き工場等の発生は承知しておりますけれども、数としての把握はしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

最近では、たびたび話に出てきます能水商店があいてる事業所を借りてやったということで、またすごく成功例としてもいいんじゃないか、そういうことで一番手っ取り早い方法じゃないかなというふうに思います。ぜひその辺の検討もお願いしたいと思います。

1次産業の新規就業状況でありますけれども、今回もいろんな方がこのことを取り上げておられますけれども、特に新規就農状況であります。かなり減っている状況なんですけれども、糸魚川市においての新規就農状況というのが、ここ数年ではどんな状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農業・林業・水産業、1次産業を全般を通しまして23年が3名、24年が2名、25年が7名、

26年が6名、27年が8名でございました。このうち農業の就業に関しましては、26年では4名、27年では4名、25年以前につきましては、2名から3名程度で推移していたということですので、ここ一、二年の間、1名ふえているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それは恐らく市内在住の方も含まれているんじゃないかなと思うんですけども、市外から移住されて始めておられるという方がおられますでしょうか。その辺の把握はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農業に特化してご説明申し上げますけれども、直近5年間で新規に就農された方16名のうちUターン者が8名で、Iターン者が4人となっております。残りの4名については、地元にて就農された方だというふうに承知しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり新規就農、担い手を募集したり、あるいは担い手をふやしていくには、所得が上らなければやはり魅力がないというふうに思うんですけども、先ほど話もしましたKPI等においても増加率を、例えば漁業だったら10%の増とか、担い手の農地の集積率を50%にするとかあるわけなんですけれども、具体的に大体、市内の平均的サラリーマンよりも所得を上持っている認定農業者あるいは専業農家という方はどれくらいおられるもんなんですか。またそれを上げる方策としては、どのようなことを考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

各農家の農業所得金額は、把握しておりませんが、農業経営基盤強化の促進に関する基本構想の中におきましては、目標の所得額を400万円というふうに想定しております。そのために必要な経営規模は、水稻単一経営の場合に15ヘクタールが必要というふうに見込んでおります。27年度末の認定農業者が165人おりますので、この15ヘクタールにおおむね到達した方というのは15名程度でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番(田中立一君)

15名程度がということで、それも400万円平均所得を持っている人でそれだけと。やはりそうするには15ヘクタールという耕地面積があるわけなんですけれども、当市においては現実問題として難しい数字のような気もするわけです。この辺は米作一辺倒が多いわけなんですけれども、それをカバーするためには、作物、園芸作物、あるいは6次産業化、そういったものを推し進めていくのが一番かなと。また、恐らくそのことにも力を入れておられるんじゃないかなと思うわけですけれども、今後、今そういったふうに高所得を上げられるための推奨する特産品や農産物は、どのように市では考えて、これから展開していくのか。

また6次産業化も今、数人の方が先ほど例として挙げられましたけれども、今後どのようなものが考えられるのかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

前のご質問にもお答え申し上げましたけども、水稻単一で農家の所得を上げていくという部分につきましても非常に厳しいものがあると思っております。

昨年の例でありますけども、米の収穫の後にキャベツを植えて園芸をすとかいう取り組みも、実際のところ昨年取り組んでいただいた農家もございます。それによる大変難しい点もあったというふうにお聞きしております。

それ以外にヨモギの生産につきましても、2年ほど前から耕作放棄地を利用して拡大をしております。それから、越の丸茄子につきましても、非常に首都圏での人気な商品でありますけれども、なかなか生産していただける方がふえてこないという問題もございますけども、そのような園芸作物についても生産拡大を呼びかけてまいりたいというふうに考えております。それから、6次産業化でワサビの栽培プラントも完成したわけでもありますけども、この3月から本格出荷というふうになります。年間6万本以上が出荷されるというふうにお聞きしておりますし、それらをワサビ単体で販売する方法もあるでしょうし、また6次産業化の事業者のほうでは、ワサビ単体でなくて加工して売り出す部分ももう既に取り組んでおりますけども、また、新たな加工という部分もNICOと連携しながら商品開発をしているというところで、余すところなくワサビを使って収益を上げるという取り組みも現在していただいているところであります。

それから、能生地域での農家の皆さん、農業法人では、冬場の就労・収入という部分が厳しい中で米菓の製造販売というところにも取り組んでいただいておりますので、そのような取り組みを支援し、また新たな取り組み事業者にしっかりとサポート体制をとっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

水産業ですけれども、水産業のほうでの新規就業、あるいは創業というものに対する取り組み、

それはいかがなものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

水産業におけます新規就業の数でありますけども、25年度では4名、26年度では1名、27年度では2名というふうな数をお聞きしとるところであります。

ありがたいことに上越漁協の平均年齢が非常に若く、新潟県内でもトップだということもございます。そういう若手の漁業者も含めて、これからの創業体制、支援体制を一緒になって考えていきたいというふうに考えておりますし、特に先ほども申し上げましたけども水産業の就職希望者の滞在費の助成事業も設けておりますので、糸魚川市においていただいて、水産業の体験をしていただきながら、新鮮な鮮魚の食も味わっていただきながら、糸魚川の魅力を感じとっていただきたいというふうに考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それで、これは2月19日の新潟日報の窓欄にありまして、非常にうれしい反面どうしたんだろうというところがあるんですけども、ごらんになったのかもしれないけれども、群馬県の高校生の人が海洋高校に釣りが好きだから来たというところなんですけれども、寮生活をしながら3年間を過ごして非常に有意義だった話を書いてあります。さらに釣り好きが高じて体験漁業などを経て、そのおもしろさからどうしてもこの仕事にしたいと思ったと。ここまで本当にいい話だなと思って見たわけなんですけれども、縁があって春から長岡市で小型定置網漁業の漁師の見習いとして働くことが決まった。縁があって、またいろんな事情があたりだったんでしょうけれども、この中に書いてあるのには、地域漁業の担い手確保事業の支援も受けと、そういうふうにあります。せっかく海洋高校に来て、体験漁業もして、ここのいい思い出もつくって行って、就職がそちらのほうに行かれたということであるわけなんですけれども、ここに書いてありますような地域漁業の担い手確保事業という支援は、この辺では、ここの地域ではどのようにされているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

新規漁業就業者総合支援事業、水産庁が所管しているものだというふうに思います。これは、市の直接のかかわりがなくて、新潟県漁業協同組合連合会が事業主体となって取り組んでおりまして、就業の相談会やらマッチングが成立した場合の船主との新規就業者を研修生と受け入れる支援体制についても、この事業の中で取り組んでいるというふうに認識しております。今お話がありましたケースにつきましては、地元漁業協同組合とどのような情報共有があったのか少し確認してみたいというふうに考えております。

それから、海洋高校につきましては、今、市内の企業がチョウザメ、それからイトウの養殖に手がけておりました、そこにも産官学連携でもって海洋高校の生徒が養殖の実習に手をお貸して、今一緒になって取り組んでいるというところでございます。ぜひそういうところに、今度は卒業生が雇用していただけるような支援体制もしっかりとサポートしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それから、なりわいネットワークが非常に成果を上げているわけなんですけれども、またこれから成果を上げれば、また活動すればしたで、またいろんな新たな課題も浮かび上がっていることも聞いてはいる。建設産業常任委員会でもお話を聞きましたし、また、いろんなところでのお話もあるんですけれども、さらにそういった考えから今回もいろんな方が一般質問にも取り上げている、団体をつくってはどうかという話があるんですけれども、私も各地で取り組み始めている地域商社というものがあるわけなんですけれども、これなんかは案外おもしろいんじゃないかなというふうに思うんですけども検討はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、なりわいネットワークでは、あじわい交流事業といたしまして東京の飲食店の皆さんから糸魚川においでいただいて、生産者の顔を見ていただいて、生産地を見ていただいて、生産地での味を味わっていただいて販売につなげるようにというふうな味わい交流事業を実施しております。

1回目はもう終わりました、2回目が3月の2日、3日と第2弾が実施するわけでありまして。

その後は、実際に糸魚川の生産者が自分の生産したものが首都圏のどういうところで、また、どのようにお客さんに出ているかというところを実際の現場を見て生産者の意欲向上につなげていただきたいなど。また、首都圏の飲食店とのつながりを強くしてほしいなということから味わい交流事業を今、計画しておるところであります。

1回目の交流事業におきましても首都圏からおいでいただいた飲食店の皆さんから販売の窓口はどこなんだ、それから、情報提供はどのようにしてくれるんだというふうなご意見もいただきました。そういう意味におきましては、今ご提案のような窓口、組織というものをどのようにつくっていけばいいのか、なりわいネットワークの会長を中心としながら、その組織体制を考えていく必要があるんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

さらなる発展と支援のほうよろしく申し上げます。

今回、起業・創業ということを中心に上げさせてもらいましたが、結構、私の周りも最近、起業・創業の話をしてる方がふえております。恐らく課長のほうもたくさんあるんじゃないかなと思います。

1つの例として、今度、結婚することになったという人がおられて、糸魚川市内で一緒に住むんだけど奥さんになる人が市外から来るが、勤めるよりも時間を自由に使いたいの自分の特技を生かしたものをやりたいと。それに当たってそんなに負担のかからない、先ほど紹介しましたコワーキング事業のようなそういうスペースがあれば取っかかりがいいんだがなということから、今回このようなことをいろいろと提案させてもらいました。ぜひまたいろんなパターンもあろうかと思っておりますのでお願いをして、まず起業・創業のほうは終わらせてもらって、次、騒音問題のほうにお願いします。

騒音問題ですけれども、これで私4回続けてなんですけれども、きょうも新潟日報の社説に、この騒音問題が大きく取り上げられております。ごらんになっているかと思うんですけれども、本当に騒音問題については、がっかりといいたまいますか大変まあ住民との話の中でもせつないという気持ち強いわけでありまして。

先ほどもいろいろと騒音問題についての質問がありましたけれども、基準の70デシベルというのは、どんなものなのかというの、あるんですけれども、この社説の中にも書いてあります。70デシベルで、間近で鳴くセミの音や高速走行中の自動車内の音量と同じであるとされる。大声で1メートル以内の距離でないと会話が成立しない環境。私もよくその現場に行っているんな方とお話するけども、新幹線が通ると一旦会話をやめて、通過してから、また話をするというような生活、住んでる方は非常にたまらないなというのが改めて思うわけでありまして。この中にさらに紹介されているのが、地響きのような音が朝から晩まで続く、朝、本当に6時過ぎから夜の11時近くまでだと。この社説にありますように幾ら便利になったからといって住民の生活を犠牲にすることは許されない。先ほど新保さんの質問のやりとりの中で市のほうも一生懸命頑張っていて、副市長も3回行かれたとかあるんですけれども、今回、機構も1次、2次測定を終わり、国もまた測定をしたということなんですけれども、国のほうでは、この測定の結果を受けていろいろと要請を出しているというふうに聞いているんですけれども、その要請の内容と、これは法的拘束力はないということなんですけれども、可及的速やかにやるといふふうに要請が出てるといふんですけれども、その辺の機構の対応はいかなもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

おっしゃるとおり環境省のほうでも騒音測定をして、そのうちの糸魚川では3カ所基準オーバーだったということで、これについては改善するようにということで申し入れを行っておるといふふうに聞いております。その席にも、例えば同行させてもらいたいかと話はしたんですけども、今回は同行はだめだということで国のほうだけで行ったということをお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番(田中立一君)

機構は、なぜこういったのは非公開なのでしょう。国は、県に委託してやったというふうに聞いてるんですけども、若干発表されているのでは、測定地点が違うのか、あるいは測定場所が国のほうが少ないからそうなのかわかりませんが、若干の違いがあるように見受けるんですけども、その辺はいかがなのでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長(渡辺 勇君)

測定の日、例えば天候だとかそういうものにも多少は影響はあるかと思えます。基本的には、資格を持った人がやっておりまして、測定方法も決められたとおりやっておりますので、さほどの違いはないと思えますが、やはり気象条件等によって若干の違いは出てくるのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

先ほど70デシベルの話をしましたけれども、この新聞を見ると柱道、小見で72、さらに2ポイント高い、以前に私聞いたのでは、柱道の一番近いところで78というのも伺ったことがあります。相当な数字のものだと思います。

資格のある方がこのように測定しているということなんですけれども、報道では国じゃなくて県、それから上越市も独自に調査をすると、これについて踏み込んで調査を継続していくと。糸魚川市は、この点についてはどういうふうに考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長(五十嵐久英君)

県の対応がどのような形というのをまだお聞きしてはいないんですけども、基本的には糸魚川市のほうでも、特に小見、柱道、梶屋敷については、継続的に測定していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

今のお話として、市のほうでも独自に測定調査をしていくというふうに受けとってよろしいということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

そのとおり、今後、市のほうでも、県とか測定地点がかぶるとまたそれも二重にはかっても無駄になるのかなとは思ってるんですけども、基本的には市のほうでも独自にはかかっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひやっていただきたいですし、その辺の様子を市民に公開していただきたい。かぶろうとかぶるまいと構わないので、どんどんやっていただきたい。なるべく早くやっていただいて、その結果をまた国、県、機構、JRにも示していく必要があるんじゃないかなと、その辺の考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えいたします。

今、鉄道・運輸機構が測定したものもありますし、それから国・県のやつもあります。したがって、今後は音源対策をしたり、それから住宅の防音工事が終了した段階で、市のほうもその辺の結果を見ながら測定していきたい、それを受けて、また鉄道・運輸機構とその辺について、対応について、また要請をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

見守らないでどんどんやっていただきたいなと思います。やはり市のほうがそういった動きやっていたらと、住民は機構等に対して信頼関係が失われつつある状況であるところは把握されてると思います。認識されてると思います。ぜひ市のほうでは、一生懸命やっているというのを見せてもらいたいと思いますので、その辺よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどからの話の中で、住民の信頼、機構に対するものの中で、これはコピーしたものなんですけれども、北陸新幹線にかかわる騒音等2次測定、それから住宅防音工事等の助成といういろいろあるんですけども、この説明や話をするときにおいて機構のほうでは、助成という言葉を使うわけなんです。助成とは何だと、我々は被害を受けているのに何でこれは助成という形なんだというふうに非常にどこへ行っても聞かれます。そういった言葉から受ける印象がすごく上から目線と言ったらいいんでしょうか、そういうふうに感ずると。こういう言い方というのは、言葉の上ではどうなんかなんですけども、使い方は市のほうでは、こういった言葉やっぱり使ったりするんでしょうか。

それと、こういう使い方についての考えと言いましょかはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほど市長のほうの答弁では、住宅の防音工事費補償ということで答弁させていただきました。市のほうでは、これは助成ではないというふうに考えております。

ただ、鉄道・運輸機構では、法律なり規則の中でそういう助成という言葉があるんだということで、そちらを根拠にしていますけども、糸魚川市としては、それは助成ではない、あくまで補償という考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

当たり前の話と言いましょか、本当にそう思います。ぜひ市のほうからこういってことで、まず1つが取っかかりからして信頼が損なわれているということぜひ伝えてもらいたいと思います。法律的なことだとかそういったことは、市民はその後でいいんです。まず信頼関係が失われるかどうかというその構築から始まるんじゃないかと思います。やっぱり上から目線のような印象を受けることはやめてもらいたい。それからスピード感、そういったことでないかと思います。交渉のほうは、今、個別に住宅等のほう始まっているというんですけれども、今60件が能生のほうではあるというふうに、60件全部に入っているということでしょうか。それとも、まだ入ったばかりということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

能生地域においては、2次測定を行ったのが60件程度であって、そのうちの基準を超えているのが半数を超えておるということでございまして、基準を超えているものについて、一応、交渉には入っておるということですが、全部が全部入ったかということではないというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

できれば市のほうもそういった要請に応じてというところあるかもしれませんが、どのような交渉をしているか等は、全て把握していただけたらというのが住民の願いでもありますし、住民説明会もやってもらいたいと。つい最近、小見のほうでは区長さんを先頭にして一度話を聞かれ

たというふうなんですけれども、その辺の状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

小見地区において、やはり住民説明会をしていただきたいということで市を通して機構のほうに話をして、先日、住民説明会を行いました。やはり今言ったように、ずっと住んでおるので、この振動だとかそういうものについては耐え切れないんだと。1次測定をやったり2次測定をやりますよと言って説明会に入ったのに、2次測定の結果についてなぜ住民説明会を行わないんだということから、機構側にもやはり不信感を持っておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

小見がそのように、それでもまとまって区長さんを先頭にそういうのスタートした。各地区においてもやはり個々においてそういうのをやりたいんだけど、なかなかできない、音頭とる人もなかなか大変だということがあります。できるものなら市のほうでもその辺を需要を察して住民説明会を速やかにしていただくようお願いしたいと思います。その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

やはり一個人では、なかなか機構に対して物を言うというのは難しいというふうに思っております。そういう意味では、区長さんなりを通して言っていただければ幾らでも説明にも行ったりしますし、それから、また住民説明会についてもやはり我々そういうものについては、行っていくのがいいのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今回と言いましょか先ほど言いました、私4回これで北陸新幹線の騒音続けてやっておりますけれども、それを聞いたり見た市民から国道8号の騒音は、ずっと前からなんだと。環境問題の現状の有無もあるわけだ。これ見ても何力所かで国道8号あります。答弁もいただいたとおりです。こういったものは、どのように、いつごろまでとかそういったことできないんでしょうか、騒音問題の解決。高速道路の基準は達してないと言うんですけれどもかなりうるさい。こういうものの働きかけ、あるいは今後の解消策というのは、どのようにやっていかれるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

国道8号については、東は能生から西側のほうは寺地まで9カ所、北陸自動車道につきましては、東は大洞から西は歌まで15カ所を、毎年、市のほうでも測定しておりまして、そのうち27年、昨年度の調査結果では、国道8号については昼間で4カ所、夜間で7カ所、北陸自動車道のほうでは夜間で1カ所、環境基準のほうがオーバーした数値が計測されたということでございます。特に国道8号については、ここ数年こういうような状況変わっておりません。

それで、先ほど市長の答弁申し上げましたように毎年の測定結果を国道の場合は国交省のほうへ、北陸自動車道につきましては、東日本・株式会社のほうへ、こちらのほうは県の高速道路交通公害対策協議会というところで県内の自治体が集まった団体でございますが、そこでということなんですけども、毎年毎年、要望はしてるんですけども、なかなか環境基準については、法定で絶対にそこを下回らないと何か罰則があるというものじゃなくて、達成すべき基準ということでございますので、なかなか、当然、環境部門といたしましては、そういうところへ、発生源のところへ申し入れはするんですけども、なかなか現実には音が小さくならないとか環境基準を達成できてないというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

地方創生とか地方での人口問題とか考える上でも静かな環境というのは大事だと、ぜひ強く要望してもらいたいと思います。高速道路の環境の中で、特に能生の駅南地区なんですけれども、盛り土のところの木が何年も前から地元からも話が出てるらしいんですけども、非常に大きくなって危ない。それが風の強いときや何かでは、盛り土の間にあるトンネル、そこは通学路にもなっていて非常に草や、あるいは枝木が落ちて危ない。昨年、若干は伐採して、これから全部やってくれるんかと思ったら全然一部だけだった。これは一体どうなってるんだらうと、なるべく早くやってもらいたいんだというふうに言ってるんですけども、この辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

高速道路の関係ですので建設課のほうからお答えさせていただきます。

糸魚川地区に盛り土区間で金網が張ってある高速道路の敷地内に木が植わってて、草とか木も生えますし、それが一応支障になるという場面があります。そのようなときは、上越管理事務所のほうへお願いしまして処分していただくようにはお願いしておりますので、能生の駅南地区でもそのような状態が発生しておると思いますので、能生事務所を通じて上越管理事務所のほうへまた要請していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番(田中立一君)

よろしくお願いします。

じゃあ次に、北陸新幹線とえちごトキめき鉄道、前回、12月議会で11月11日と15日に建設課のほうで南北自由通路の調査をしていると。いつか報告されるのかなと思ってるんですけど、全然報告が今までなかったように思うんですが、結果を教えてくださいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長(串橋秀樹君)

南北自由通路の歩行者の数でありますけども、11月11日と11月15日、11月11日は普通の日で、11月15日は日曜日の日でありました。詳しくちょっと説明させていただきますと、11月11日が在来線で乗車した人は665人、おりた人が652人、それと11月15日、乗車した人が377人、おりてきた人が385人です。それと、今度、新幹線の改札口ですけども、11月11日に乗車した人が803人、おりてきた人が618人、11月15日の日曜日ですけども、乗ってきた人が694人、おりてきた人が691人ということであります。これも合計しますと在来線、新幹線合わせて乗降客数というのは、11月11日が2,838人、11月15日が2,147人ということであります。

それとあと、南北自由通路を南から北へ行ったり、北から南に行ったりと、駅を利用しないで南北自由通路だけを利用した人が11月11日が933人、11月15日が925人というふうになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

ありがとうございます。そのときの話では、新幹線については、金沢方面からと東京方面からの人数も調査したというふうに答弁されてるんですけども、それはいかがだったんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長(串橋秀樹君)

ちょっと待ってください。

議長(倉又 稔君)

暫時休憩します。

午後4時50分 休憩

午後4時50分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

すみません、申しわけありませんけども、金沢方面と東京方面の数字は、今、出ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もし、また、わかったら後で教えてください。

これをやった目的というのは、何だったんでしょうか。それと、この数字を今後、市ではどのように生かしていく予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

新幹線が開業しましてから駅も新しくなったわけで、初めてどれぐらいの人数だということを確認したいために実施したわけですが、明らかに言えるのは、新幹線の乗客に対しまして在来線の利用者というのは、新幹線開通前よりも200人ぐらい減ってきたということが言えておると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

補足してちょっと説明をつけ加えさせていただきますけれども、今の乗降調査を含めて、以前に新幹線の乗降客の調査等も実施いたしております。先ほどほかの方の一般質問にもお答えいたしました。今後の都市計画マスタープランの見直しとか、あるいは地域公共交通の交通網の形成計画とかそういうようなものを含めて、市の計画の中で今のものを分析し、生かしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

100年に一度のチャンスとしていろんな事業にこの1年取り組んでできましたけれども、2次交通を含めてのその辺の事業の検証等はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

間もなく開業から1年を迎えます。前段のご質問の関係もありますけれども、今の新幹線の乗降客、あるいはまた在来線の乗降客、もっと言えば経済指標の全体的なこと、2次交通ももちろん含めてでありますけれども、景況調査の結果、あるいは観光入込客、宿泊者の動向とかこういったものを1つのテーブルの上に乗せてしっかりと分析をしていく必要があるというふうにも思っております。間もなくその時期を迎えるわけありますので、数字をしっかりと把握した上で真価を問われる2年目に突入をしていくという準備をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、えちごトキめき鉄道ですけれども、朝・夕の混雑解消は、今回ダイヤ改正見てがっかりしました。全然我々の要望、特別委員会でもえちごトキめき鉄道、あるいは県のほうへも要望行ったんですけれども、反応がよくなかったことは確かなんですけれども、全然ダイヤ改正見ると我々の要望は反映されていないというふうに映ってるわけなんですけれども、その辺について市のほうではいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

先ほどから申し上げてるとおりやはり要望は、何も受け入れてもらえなかったという感想は持っております。やはり数字だとかそういうものをしっかり示した上で、どうしても混雑解消をしていかなければならないというふうに思っておりますので、また引き続き要望・要請なりしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

取締役会では、このことについてどのような話をされているかお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

ダイヤ改正につきましては、取締役会での協議時間ではないということで、私らもこのダイヤ改

正につきましては、発表された段階で初めて知ったということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、混雑解消についての取り組みについては、どのような話し合いをされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

混雑解消につきましては、逆に取締役会とかそういうところではなくて、私らの糸魚川市とえちごトキめき鉄道相對で要請をしております。昨年も10月ごろからそういったことを要請しておるんですけども、ダイヤ改正も含めまして、それから車両の増設等を要望してるところであります。

ただ、ダイヤ改正につきましては、余りダイヤは改正されなかったなということでもありますし、快速のほうがもう少し30分ぐらい早くしてもらいたいという要請もしたんですけども、それはJRとの関係があつてだめだったということでもあります。そういったことで、今後、また車両の増設等につきましては、十分要請したいと思っております。

また、朝の混雑のほうですけども、今、乗車率はえちごトキめき鉄道の調査では、乗車率はまだ100%にはなっていないということでもあります。大体60から80%の段階なんだということでもあります。そういったことを踏まえて、またこの春から私らも直接乗ってみて乗車率がどれぐらいなのか、それから混雑率がどれぐらいなのか、そういうことにつきまして実態も十分調査したいと思っております。

議長（倉又 稔君）

質問の途中ではありますが、あらかじめ皆様方にお諮りいたします。

質問時間が5時を過ぎるかもしれませんので、本日の会議時間を、もし過ぎたとしたら延長したいと思えます。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することに決めます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

副市長には、ぜひ取締役会のほうでも実態を調査した上で強く要望していただきたいと思えます。時間がないんですけども、イベント列車、私12月のときに申し込んだらもう申し込みはできない

んだと。先ほどの答弁では春からと、このことについては全然ホームページにも何もなくて、私ら使ってあげなきゃと思ってやったらだめだったという、この辺についてイベント列車の中止のことについては、いかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

イベント列車につきましては、ことし初めて冬の運行、イベント列車、普通の運行も、ことし初めて冬を迎えるということで、その状況がどうなるかということで、まず通常の運行を優先して、イベント列車については、少し冬様子を見させてもらったというのが現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

事前にやはりホームページでもいいですし、発表してもらいたかったと思います。

以上、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

+

午後4時59分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員